



公益社団法人

鹿児島県診療放射線技師会

会 報

令和8年9月

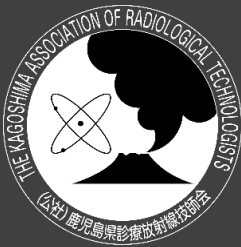
第146号



公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会

鹿児島市東坂元4丁目28-11

TEL 099-248-0028



鹿児島県診療放射線技師会 LINE 公式アカウント



友だち追加はこちら!!

- ① 行事・研究会のお知らせ
- ② 研究会アーカイブ配信案内
- ③ 会員限定サポート情報
- ④ 会報発行案内
- ⑤ その他各種案内

* 県内の診療放射線技師であれば非会員でも登録 OK です！

鹿児島県診療放射線技師会 会報 第146号 目次

【巻頭言】	鹿児島県診療放射線技師会 会長 大迫 俊一	2
【お知らせ】	会報電子化について	3
	組織理事よりお知らせ	4
	会計日より	6
【開催報告】	令和8年度 鹿児島県放射線技師会 春季学術大会	7
	第64回 鹿児島CT研究会	18
	第81回 鹿児島消化器画像研究会 第30回鹿児島超音波研究会 合同開催	20
	第27回 鹿児島県放射線治療技術研究会	23
	第24回 鹿児島県医療情報システム研究会	
	令和8年度鹿児島県医療画像情報精度管理士部会 合同開催	25
	第32回 鹿児島MRI研究会	27
【議事録】	令和8年度 第1回常務理事会 議事録（抄）	29
	令和8年度 第1回理事会 議事録（抄）	32
	令和8年度 第2回常務理事会 議事録（抄）	38
	令和8年度 第2回理事会 議事録（抄）	42
【行事・活動予定】		45
【鹿児島県診療放射線技師会 役員名簿】		46
【企業広告】		47
【編集後記】		56

《 巻頭言 》

共に学び、高め合う

公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会

会長 大迫 俊一

会長を拝命してから一年余りが経過しました。この一年、会員の皆さまをはじめ、地域理事、研究会・部会の世話人、役員の皆さまなど、多くの方々に支えていただきながら会務に携わってまいりました。日頃より本会の活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

昨年巻頭言では、鹿児島県は離島や大隅半島など地理的条件が多様であることから、Web配信を活用した情報提供や研修会の充実、現地開催とのハイブリッド形式を積極的に取り入れ、会員同士がつながる場として活用していきたいとお伝えしました。

この一年、本会では研修会のWeb・アーカイブ配信、LINEを活用した情報発信、会報の電子化、総会における電子投票など、新しい取り組みを少しずつ進めてきました。これらは単に会務をデジタル化することが目的ではなく、必要な情報をより早く届け、県内のどこからでも学ぶことができ、より多くの会員が技師会活動に参加できる環境を整えるためのものと考えています。

研修会についても、Web参加と現地参加には、それぞれの良さがあります。Web参加は、遠方や勤務の都合などにより現地参加が難しい会員にとって有効な参加手段です。一方、実際に顔を合わせて意見を交わすことで得られる情報や、新たなつながりも大切です。そのため、開催内容や会場等の条件にもよりますが、可能な限りハイブリッド形式を取り入れ、参加しやすい環境と対面での交流の双方を大切にしていきたいと考えています。

また、研修会終了後の情報交換会なども、単に親睦を深めるだけではなく、日頃なかなか聞くことのできない他施設の取り組みや課題について話し合う貴重な機会です。施設や世代を越えて意見を交換し、相談できる仲間が増えることは、技術や知識の向上と同じように技師会活動の大きな意義の一つであると感じています。

診療放射線技師を取り巻く環境は、AIや医療DXの進展、タスク・シフト／シェア、少子高齢化や働き方の変化などにより、今後さらに大きく変化していくことが予想されます。このような時代だからこそ、一人で知識や技術を身につけるだけでなく、それぞれの経験や考えを持ち寄り、「共に学び、高め合う」ことがこれまで以上に重要になるのではないかと考えています。

技師会は、役員だけでつくるものではありません。研修会に参加すること、研究成果を発表すること、後輩へ経験を伝えること、そして日頃感じていることや新しい提案を技師会へ届けていただくこと、その一つひとつが技師会の活動につながります。

これまで諸先輩方が築いてこられた鹿児島県診療放射線技師会の歴史と人とのつながりを大切にしながら、新しい取り組みも積極的に進め、会員の皆さまにとってより身近で、参加しやすく、「技師会に入っていてよかった」と感じていただける組織を目指してまいります。

今後とも本会の活動へのご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

鹿児島県診療放射線技師会 会報 の電子化について

鹿児島県診療放射線技師会

会長 大迫 俊一

これまで本会では、会報発行に係る費用の削減を目的として、ページ数の制限や会報・ニュースの発行方法の見直しなど、さまざまな工夫を行ってまいりました。

しかしながら、近年の印刷費や郵送費の高騰により、1回の会報発行に要するコストは増加傾向にあります。

そこで本会では、会報第143号・第144号においていただいたご意見を踏まえ、下記の内容を踏まえ、令和8年度（2026年度）より会報およびニュースレターの電子化（PDF形式）を段階的に導入することを、令和7年度第5回理事会において決定いたしました。

① 会報発刊の通知方法について

県診療放射線技師会ホームページおよびLINEにてお知らせします。

② 過去の会報誌のアーカイブ化について

鹿児島県診療放射線技師会ホームページに掲載します。

③ 紙媒体による会報の希望について

紙媒体での会報を希望される方には、これまでどおり発送いたします。

④ 会報のカラー化について

電子会報についてはフルカラーとし、紙媒体の会報については費用面を考慮し、従来どおりの仕様で発行いたします。

⑤ 情報発信頻度について

会報の作成にはその都度費用を要するため、発行回数を増やすことは困難ですが、研究会等の開催報告などについては、ホームページやLINEも活用しながら情報発信に努めてまいります。

電子化した会報・ニュースレターは、鹿児島県診療放射線技師会ホームページに掲載し、あわせてアーカイブ化することで、会員の皆さまがいつでも自由に閲覧できる環境を整備する予定です。

また、電子化により削減された経費を活用し、会報内容の充実を図るとともに、地域活動、研究会等への支援にも積極的に充てていく方針です。

これにより、会員の皆さまにとって、より有益で魅力ある情報発信が可能になると考えております。

なお、従来どおり紙媒体での会報を希望される会員の皆さまには、引き続き郵送にてお届けいたします。紙媒体の希望・停止に関しては、下記のURLまたは二次元コードよりお手続きくださいますようお願いいたします。

* 今後は、県技師会ホームページにて紙媒体の希望・停止を登録できるようにする予定です。

URL : <https://forms.gle/8jFukDoBX4Vf1JT47>



組織理事よりお知らせ

組織担当 木場淳

1.入会案内につきまして

(公社)日本診療放射線技師会では、技師籍登録初年度の入会費用が「**無料!**」となっており、大変お得に入会することが出来ます。(※なお本会分の年会費 7500 円は必要です)

また資格確認も「登録済証明書」のハガキで可能です。

同施設で入会されていない新人の方や、お知り合いで未入会の方がいらっしゃいましたら是非とも入会をお勧めください。

入会種別		入会金	年会費	初年度合計
通常入会	日本診療放射線技師会	5000	14000	19000
	鹿児島県診療放射線技師会(九州地域学術大会負担金含む)	0	7500	7500
				26500
技師籍登録初年度	日本診療放射線技師会	無料	無料	無料
	鹿児島県診療放射線技師会(九州地域学術大会負担金含む)	0	7500	7500
				7500

2. 退会手続きにつきまして

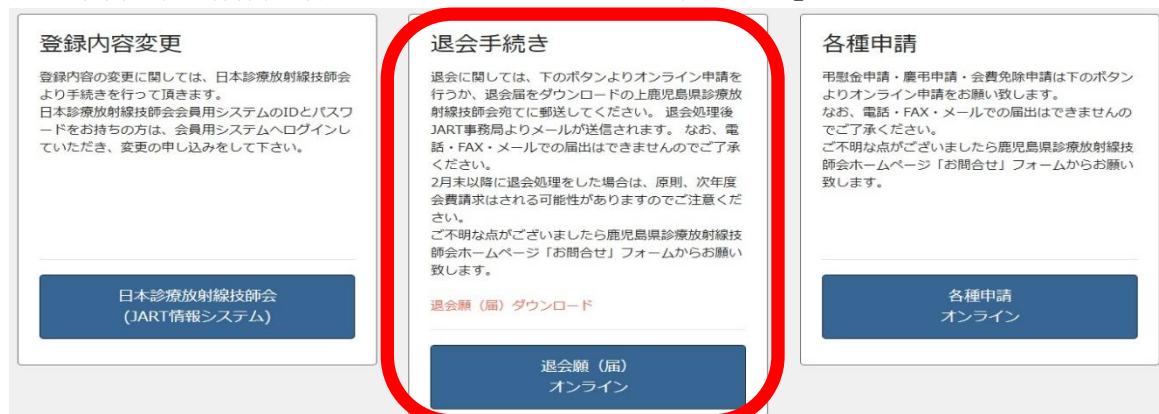
当会からの退会を希望される場合は、当会ホームページの会員サイトにログインしていただき、ページ下の「退会手続き」からのオンライン申請をお願い致します。不可能な方は退会届ダウンロードし当会宛の郵送でも構いませんが時間を要してしまいます。また当会では電話・FAX・メールでの届出はできませんのでご了承ください。なお年度末退会をお考えの方は 2 月末以降に退会申請された場合、原則、次年度会費請求される可能性がありますのでご注意ください。

※退会する場合は、当年度までの会費を納める必要があります。

※当会退会と同時に公益社団法人日本診療放射線技師会も退会となります。



鹿児島県診療放射線技師会ホームページメニュー「会員サイト」よりログイン



会員サイトトップページ下「退会手続き」よりオンライン申請

3.会員情報の変更について

会員情報が変更になられた際には JART 会員情報システム（JARTIS）登録の変更をお願いします。
また県ホームページの会員サイトも個人情報の編集をお願い致します。
本会はこの情報を基に活動させていただいております。皆様のご協力をお願いいたします。

① JART 情報システムの変更方法

JARTIS ログイン → 「会員情報確認・変更」



※このページの「連絡先（会誌・書類等送付先）」が会誌の送付先となります。
送付先を変更される際は、こちらのプルダウンメニュー（自宅、勤務先）より選択してください。

② 県ホームページ会員サイトの編集方法

会員サイトログイン→左上 CacaoBiz アイコン→設定→個人情報編集→更新保存



鹿児島 太郎 (カゴシマ タロウ)

パスワード ログインパスワード

電話 電話番号

生年月日 性別 選択

個人情報 写真

勤務先名 勤務先

勤務先〒 勤務先

勤務先住所 勤務先

勤務先住所 勤務先

プライベートメール 携帯

電話 携帯

連絡先住所 自宅

4. JARTIS リニューアルに伴う利用登録（再登録）のお願い

（公社）日本診療放射線技師会では 2026 年 7 月 28 日より JART 情報システム（JARTIS）の全面リニューアルを行いました。これに伴い、これまで JARTIS をご利用いただいていた皆さまには、新しい JARTIS への利用登録（再登録）をお願いしております。

これまでお使いいただいていた JARTIS のログイン ID・パスワードは、新しい JARTIS には引き継がれません。すでに JARTIS をご利用いただいていた方も、あらためて利用登録のお手続きをお願いいたします。

再登録のご案内メールが、2026 年 7 月 29 日より順次送信されております。なお、メールマガジンの配信を希望されていない方などには、ご案内メールが届かない場合があります。ご案内メールが届かない場合は JART ホームページお知らせ「<https://www.jart.jp/news/info/20260728-01>」内リンクより再登録のお手続きが可能です。

なお上記 JART お知らせページ内に手続きの流れをまとめた資料もありますのでご参照ください。

【ご注意】

再登録のお手続きは、必ずご案内メールに記載のリンク、または JART お知らせページ内のリンクから行ってください。これら以外のページやリンクからのご登録はお控えください。

会計だより

財務 木原悠太 屋部太輔

令和 8 年度会費納入に関するお願い

本年も鹿児島県診療放射線技師会におきましては、日本診療放射線技師会費、鹿児島県会費および九州地域放射線技師会費の合算請求を行っております。つきましては、JART（日本診療放射線技師会）より郵送される「お支払いに関する書面」の手順をご確認のうえ、会費の納入をお願い申し上げます。なお、クレジットカードでの納入も可能となっております。詳細につきましては、JART の案内をご確認のうえ、お手続きをお願いいたします。

納入期限の 2026 年 9 月 30 日（水）を過ぎますと、日本診療放射線技師会からの委託金が減額されてしまいます。当会の円滑な運営のためにも、お早めにご納入いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

除籍者に対する未納会費（債権）回収について

JART（日本診療放射線技師会）発刊の「NetworkNow（2022 年 4 月号）」にて通知されました通り、会費未納者を対象とした債権の委託回収が開始され、現在も順次進められております。鹿児島県診療放射線技師会におきましても、JART と連携し、除籍者に対する未納会費の回収を行っております。

今年度、督促状が郵送された方の中には、「支払い忘れ」によって不本意ながら除籍処分となり、督促状が届いてしまったケースも見受けられます。このような事態を防ぐためにも、確実な納入をお願いしたく存じます。現在、会費の支払い方法は「窓口支払い」と「クレジットカード支払い」が選択可能です。毎年の支払い忘れを防止するためにも、ぜひクレジットカード支払いへの切り替えをご検討くださいますようお願い申し上げます。

令和 8 年度(公社)鹿児島県診療放射線技師会 春季学術大会 開催報告

学術担当 藤崎 誠

今年度の(公社)鹿児島県診療放射線技師会 春季学術大会は、5 月 31 日(日)午後より鹿児島市立病院 1 階 多目的ホールにて、会場と Web 参加のハイブリッド方式で行われました。

特別講演、第 20 回九州放射線医療技術学術大会表彰式・基調講演、会員発表の 3 部構成で開催しました。参加者は、65 名(診療放射線技師 64 名)でした。

特別講演は、「**高額医療機器の更新から考える**」と題し、講師には地域マネジメント研究所 代表の成清哲也先生にご登壇頂き、高額医療機器更新の問題点や考えなければならないことなどをご講演頂きました。

我々診療放射線技師にも高度なマネジメントスキルが必要であり、地域医療構想の中で自施設の役割、自部門の役割を明確にし、機器の更新や人材育成に関しても戦略的に取り組む必要があると実感しました。

表彰式・基調講演は第 20 回九州放射線医療技術学術大会でフレッシュアズ賞を受賞された今村総合病院の福田萌乃様、優秀賞を受賞された鹿児島大学病院の元日田調様、学術奨励賞を受賞された今村総合病院の馬場隆行様の表彰式ならびに学術奨励賞の馬場様に受賞演題「**頸椎開口位撮影における環軸椎関節描出不良の要因分析と ATLAS-View による改善策の検討**」と題して本研究の概要や苦慮した点、日常の研究課題を考えるヒントなどをご講演頂きました。受賞された 3 名の方は誠にありがとうございました。

会員発表は、3 演題のエントリーであった。演題は、MRI の位置合わせ精度、MRI 検査の安全管理、CT 検査の副作用調査報告と多岐にわたる内容で、それぞれの施設で活躍されている演者の方の研究結果や試みの発表があり、聴講された会員には、大変勉強、参考になったのではないかと思います。また、今年度の特筆すべき点としては経験 3 年未満の方の発表が 2 演題あったことです。(発表内容は本誌に掲載)

今年度、(公社)鹿児島県診療放射線技師会では、10 月 31 日(土)に秋季学術大会を大隅地域と合同で開催予定ですので、演題のエントリーと多数の方の参加をお願い致します。

「学術大会プログラム」

【特別講演】13 時 00 分～14 時 00 分 座長 鹿児島県診療放射線技師会 会長 大迫俊一

「**高額医療機器の更新から考える**」

地域マネジメント研究所 代表 成清哲也 先生

【表彰式・基調講演】14 時 10 分～15 時 30 分 座長 鹿児島県診療放射線技師会 学術 藤崎 誠

第 20 回 九州放射線医療技術学術大会 in 鹿児島

フレッシュアズ賞 今村総合病院 福田萌乃 様

優秀賞 鹿児島大学病院 元日田調 様

学術奨励賞 今村総合病院 馬場隆行 様

基調講演

「**頸椎開口位撮影における環軸椎関節描出不良の要因分析と ATLAS-View による改善策の検討**」

今村総合病院 馬場隆行 先生

【会員発表】13時20分～13時50分 座長 鹿児島大学病院 医療技術部 放射線部門 本村 克朗

1. 「“赤外線ローカライザーを使用しない位置合わせ”

シーメンス社製 1.5T MRI ポジションセンサーの位置精度と体格差の影響に関する検討

大井病院 愛下 剛

2. 「MRI 検査において当院で経験したヒヤリハット事例と安全管理の取り組み」

南風病院 田島明音

3. 「当院の CT 検査における造影剤副作用に関する調査報告」

鹿児島大学病院 川畑ひまり

【会場風景】

【表彰式】



福田萌乃様



元日田調様



馬場隆行様



【基調講演】

【会員発表】



本村氏



川畑氏



田島氏

シーメンス製 1.5T MRI に搭載された BioMatrix Position Sensor の 位置精度と体格差の影響に関する検討

大井病院 放射線科 愛下 剛

【図 1 BioMatrix Position Sensor の概念図】



【はじめに】

近年の MRI 装置では AI 技術を活用した検査支援機能が搭載されている。MAGNETOM Flow.Plus (Siemens Healthineers) に搭載された BioMatrix Position Sensor は、患者体型やコイル情報を認識し、自動的に適切な撮像位置を提示する機能である。しかし、その位置精度や体格差による影響についての報告は少ない。

【目的】

BioMatrix Position Sensor の位置精度を評価するとともに、身長および体重の違いがポジショニングに与える影響について検討した。

【使用機器】

MRI 装置：MAGNETOM Flow.Plus (Siemens Healthineers)

受信コイル：Head/Neck Coil (16ch)、Spine Coil (24ch)、BM Contour M Coil (12ch)

ファントム：プラスチックボトル型ファントム

【方法】

Head/Neck Coil および Spine Coil を用いてポジションセンサーが提示する中心位置を評価した。また Spine Coil を用いて体重変動モデル（身長 180cm 固定、体重 50～90kg）および身長変動モデル（体重 70kg 固定、身長 140～190cm）を作成し、体格差による影響を検討した。さらに BM Contour M Coil を用いてセンサー使用範囲内（0～130cm）における配置位置の違いによる精度変化を評価した。

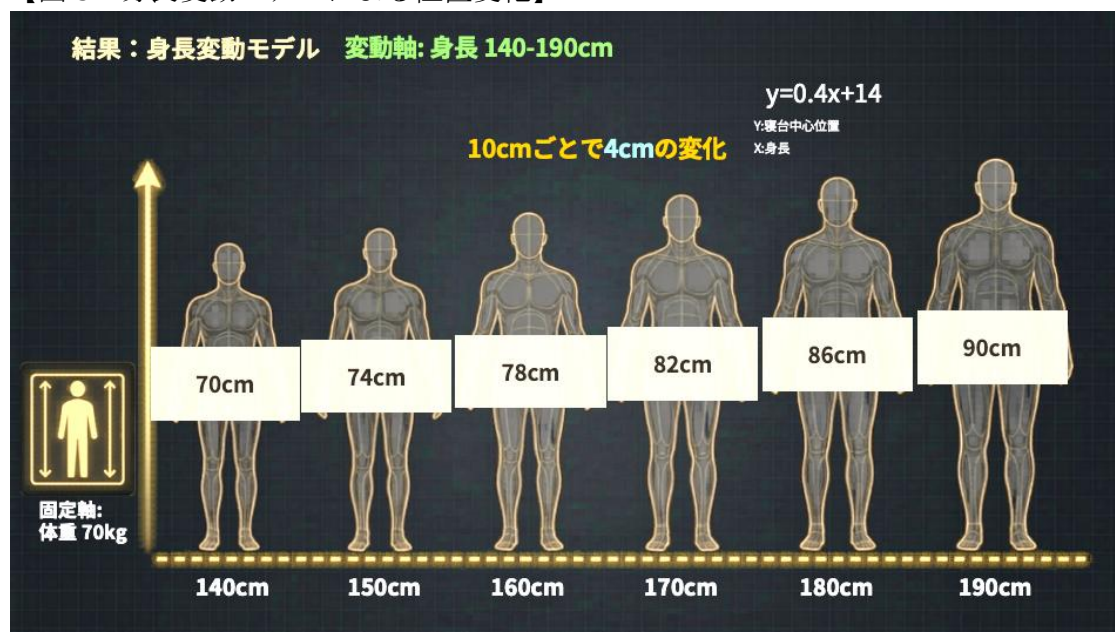
【図 2 BioMatrix Position Sensor の検証方法】



【結果】

Head ポジションでは 23cm、C-spine/Neck ポジションでは 35cm、L-spine ポジションでは 86cm（身長 180cm、体重 70kg 設定）を示し、いずれも 3 回の測定で変動は認められなかった。体重変動モデルでは 50～90kg の範囲において中心位置はすべて 86cm であり、体重による影響は認められなかった。一方、身長変動モデルでは身長 140cm で 70cm、150cm で 74cm、160cm で 78cm、170cm で 82cm、180cm で 86cm、190cm で 90cm を示した。身長 10cm の増加に対して約 4cm の位置変化を認め、近似式は $y=0.4x+14$ であった。また BM Contour M Coil では全ての測定位置において位置ずれを認めなかった。

【図 3 身長変動モデルによる位置変化】

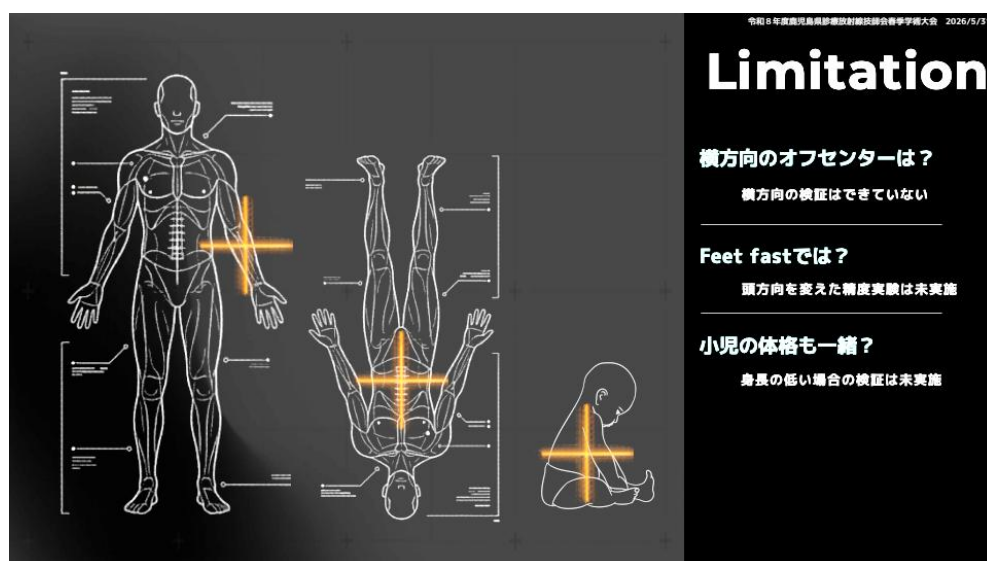


【考察】

BioMatrix Position Sensor は高い再現性と位置精度を示した。Head/Neck Coil および Spine Coil において測定値のばらつきは認められず、安定したポジショニングが可能であった。また、体重変化による影響は認められなかった一方で、身長変化に応じた位置補正が確認された。これは装置が入力された体格情報を利用し、腰椎領域が適切にアイソセンター付近となるよう補正しているためと考えられる。さらに、BM Contour M Coil では使用範囲内のいずれの位置においても位置ずれを認めず、コイル位置認識精度は良好であった。

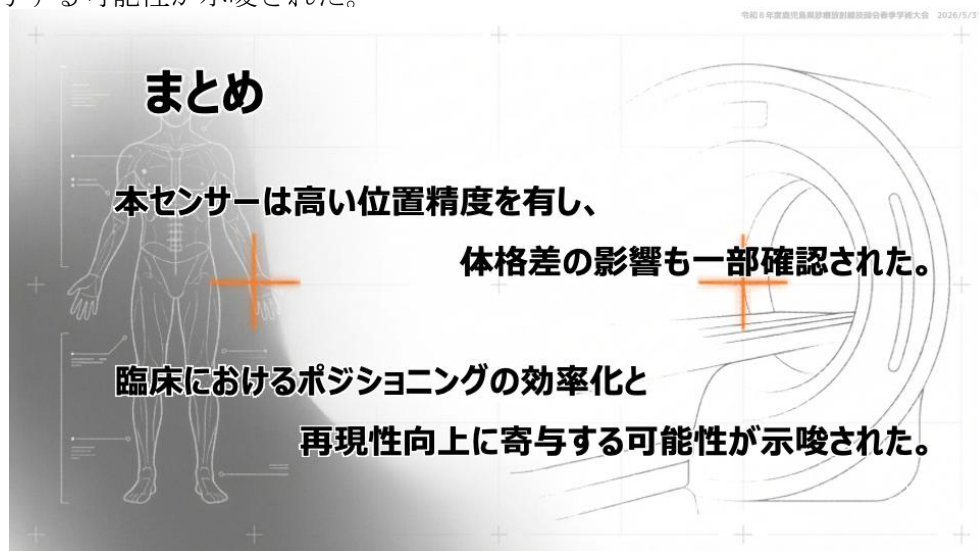
本研究はファントムおよび限定的な体格モデルによる検証であり、実臨床における多様な体格や体位条件を十分に反映しているとは言えない。今後は横方向のオフセンター評価、Feet First 撮像時の精度評価、小児体格を含めた臨床的検証を行い、本機能の有用性をさらに検討する必要がある。

【図 4 Limitation】



【結語】

BioMatrix Position Sensor は高い位置精度と再現性を有していた。体重差による影響は認められなかったが、身長差に応じた位置補正が確認された。本機能は MRI 検査におけるポジショニングの効率化および再現性向上に寄与する可能性が示唆された。



MRI 検査において当院で経験したヒヤリハット事例と安全管理の取り組み

鹿児島共済会 南風病院 放射線技術科 田島 明音

【背景】

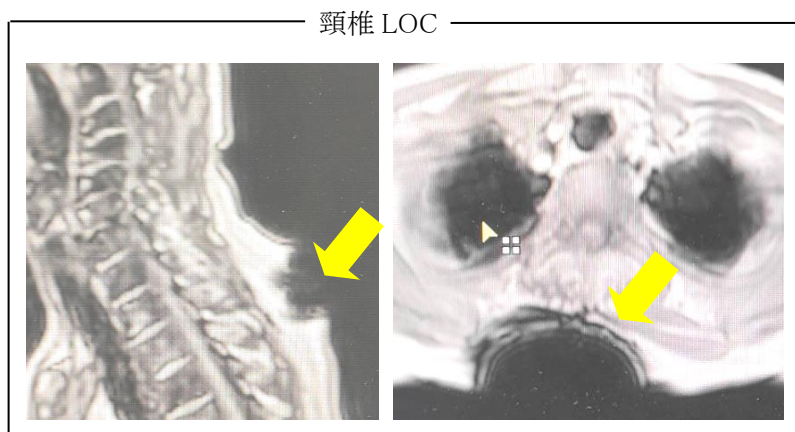
MRI 業務において安全管理は非常に重要な課題のひとつである。特に経験の浅い新人技師にとっては、想定外の事象によるヒヤリハットが発生しやすいと考える。当院でも過去にヒヤリハットを経験しており、その原因分析と対策を行ってきた。

【目的】

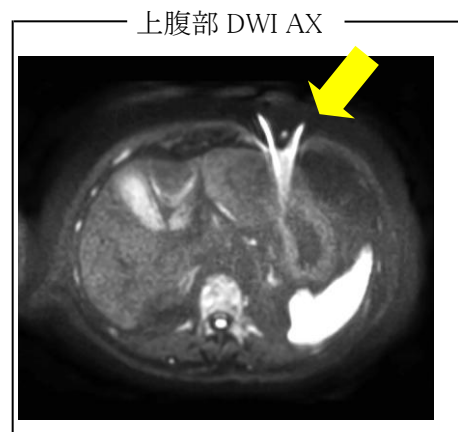
当院 MRI 室で過去に発生した 2 つのヒヤリハット事例について、発生要因と実施した再発防止策・改善策を報告する。あわせて当院で取り組んでいる安全管理の運用についても紹介する。

【事例紹介】

事例 1: 検査着・掛け物のバーコード

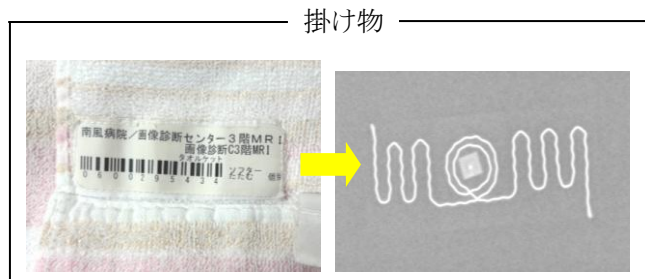
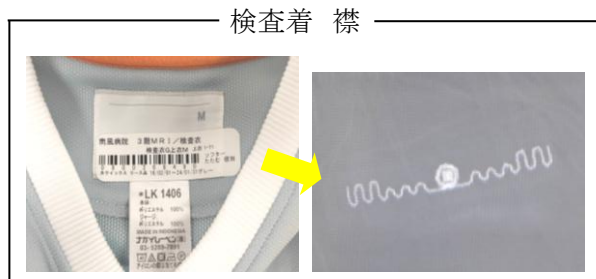


頸部後方の歪み



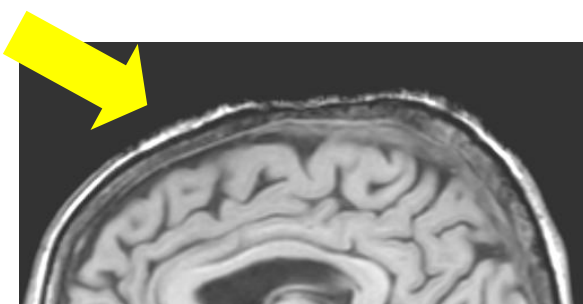
腹部前方の歪み

問診および金属探知機で異常が確認できなかった患者のスカウト画像、DWI 画像において歪みが発生した。撮影前に、患者に対して金属探知機での確認を行っていたが、反応は見られなかった。撮影を中断し中に入って確認を行ったが歪みが発生している部分に金属は見当たらず、確認できたのは検査着・掛け物のバーコードのみであった。金属探知機、磁性体探知機の両方で再度確認を行ったところ、磁性体探知機で微反応が確認されバーコードが問題の根源であることが判明した。



検査着と掛け物のバーコードをレントゲンで撮影すると枚数を管理するための金属製のチップが確認された。リース会社に連絡し、MRI 室で使用する検査着等については金属部品が含まれていないバーコードへの交換を依頼し対応した。今回は撮影範囲に入っていたため気付くことができたが、撮影範囲に入っていなかったらそのまま検査を実施していた可能性も考えられる。

事例 2: 粉末式増毛パウダー



頭頂部に歪み

頭部 MRI 撮影時に頭頂部に歪みが発生した。撮影前の金属探知機による確認では反応はなかった。検査終了後に確認を行ったところ粉末式増毛パウダーが原因であることが判明した。一部の粉末式増毛パウダーには酸化鉄などの磁性体が含まれており、撮影時に磁場の不均一を引きおこし、頭頂部に aura サインとして現れる。本事例の問題点は、患者本人からの申告がなかった点である。通常、検査直前に着用していることが分った際は、シャンプー等で洗い落としてから検査を実施していたが、患者の負担と時間を要してしまう。そこで事前に確認ができ、患者から申告してもらえるような体制をつくりたいと考えた。

【当院での取り組み】

① 問診表の改定

MRI 検査を安全に受けて頂くため、下記の質問にお答え下さい。

1. 身長と体重を教えてください。 (身長 cm 体重 Kg) はい・いいえ

2. MRI 検査は初めてですか？ はい・いいえ

3. 閉所恐怖症がありますか？ はい・いいえ

4. イレズミ、アートメイクをしていますか？ はい・いいえ

5. 入れ歯、磁石の入れ歯、インプラントはありますか？ はい・いいえ

6. 体内埋め込み装置はありますか？ はい・いいえ

心臓ペースメーカー・埋込み型除細動器 (ICD)・人工内耳
植え込み型心電図記録計 (ICM)・その他装置 ()

7. 頭部・心臓の手術歴はありますか？ はい・いいえ

脳動脈クリップ・脳出血手術・脳室シャントバルブ
心臓人工弁・冠動脈ステント・心臓バイパス手術
上記以外の頭部・心臓手術 ()

8. 体内金属はありますか？ (ある場合は<部位>もお答えください) はい・いいえ

固定術 < 部位 > ・人工関節 < 部位 > ・その他金属 ()

【当日、身につけているものがあれば○印をつけて下さい】

補聴器・カラーコンタクト・ヒートテック肌着・義肢・義眼・カツラ・ヘアピン
貼付剤・カイロ・エレキバン・アクセサリ・時計・万歩計
人工肛門・持続グルコース測定器 (リブレ等)・その他 ()



検査当日チェック表

MRI検査では、検査室内に金属を持ち込むことはできません。※金属持ち込み時の故障等は、当院では責任を負いません。
当日、身につけているものがあれば「あり」、なければ「なし」に○をつけてください。

あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
補聴器	カラーコンタクト	磁石の義歯	入れ歯・磁石の入れ歯	ヘアピン アクセサリ	カツラ・ウィッグ
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
ブラジャー 金属付きの下着	補聴器下着 (ヒートテックなど)	ヘルメット・ヘルメット 金属付きの装着	胎動計・胎動 モニターなど	エレキバン 圧迫機	カイロ
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
時計・カバン	携帯電話・財布 磁気付カード	持続グルコース測定器	人工肛門	コルセット サポーター	義肢

6 下記の項目で当てはまるものはありますか？ ☐ はい ☐ いいえ
⇒「はい」の場合は次の当てはまるものに「✓」してください。

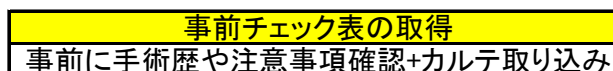
☐	☐	☐	☐	☐
イレズミ・ タトゥー・ アートメイク	閉所恐怖症	妊娠の可能性	増毛パウダー	ジェルネイル マグネットネイル

イラストを加え、視認性を向上させることで、患者さんに優しい問診票へ改定。従来口頭では聞きづらかった増毛パウダー等の項目も確認できるようになった。

② 事前チェック表の運用

<運用前>

<運用後>



運用前は上記のように検査オーダーを取得した際、外来にて頭部・心臓の手術歴のみを確認しカルテに記載していた。そのため、その他の情報は検査当日に問診票を確認するまで分らない状態であった。

当院の CT 検査における造影剤副作用に関する調査報告

鹿児島大学病院 川畑 ひまり

【背景・目的】

造影 CT 検査の副作用因子に関する報告はこれまでにいくつかあるが、その結果は一定しておらず、統一した見解は得られていない。そこで本研究は、当院における造影 CT 検査の副作用発生状況を調べ、副作用発現に関連する因子について検討した。

〈検討項目〉

1. 副作用発生率
 - ① 検査数との関係
 - ② 使用造影剤との関係
2. 性別
3. 注入速度
4. 重症度(ACR 分類)

【方法】

放射線情報システムを使用し、2024 年 4 月～2026 年 3 月までの造影 CT 検査 17,091 件のデータを集計し、副作用の発生率や発生割合、症状について様々な検討を行った。注入速度は 3.0 mL/sec 未満を低速注入、それ以上を高速注入と定義した。

【結果】

結果 1

副作用発生率は、調査期間内の年度毎で比較すると、ほぼ同値となった。(Fig.1)

結果 1-①

検査件数に対する副作用発生率に比例関係は無く、月毎で比較しても規則性は見られなかった。(Fig.2)

結果 1-②

使用造影剤によって発生率に差が見られたが、いずれも 2 %以下となった。発生率に差は見られたが、発生率自体はどれも低く、使用頻度が高いからといって発生率が高くなるというわけではなかったため、今回は誤差とした。(Fig.3)

結果 2

男性が 49.4 %、女性で 50.6 %で大きな差は見られなかった。(Fig.5)

結果 3

>3.0 ml/sec で 52.4 %、≦3.0 ml/sec で 47.6 %であり、大きな差は見られなかった。(Fig.6)

結果 4

軽度が 93.9 %、中等度が 5.2 %、重度が 0.9 %だった。(Fig.7)

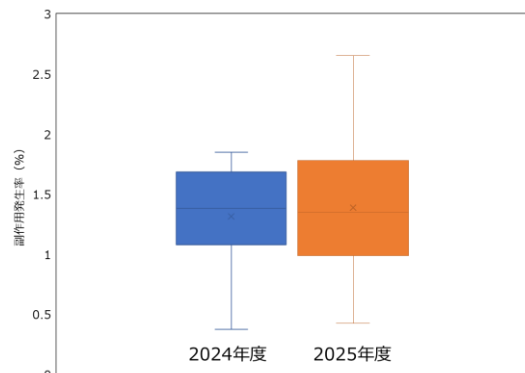


Fig.1 副作用発生率

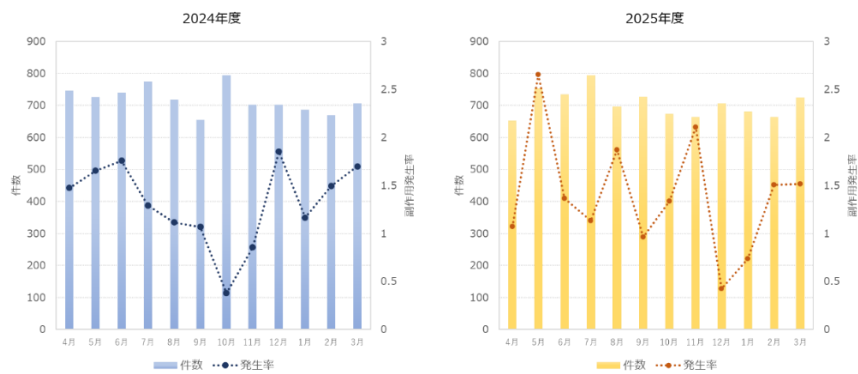


Fig.2 副作用発生率と検査件数の関係

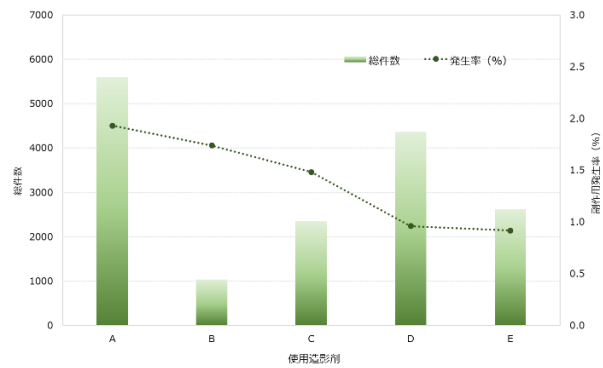


Fig.3 副作用発生率と使用造影剤との関係

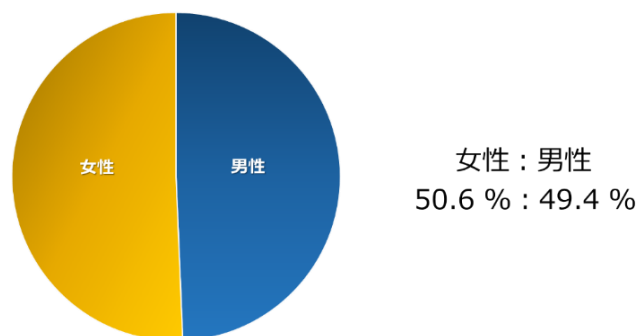


Fig.4 男女比による発生割合

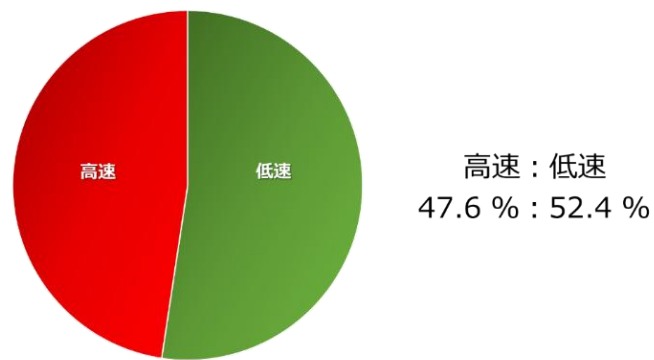


Fig.5 注入速度による発生割合

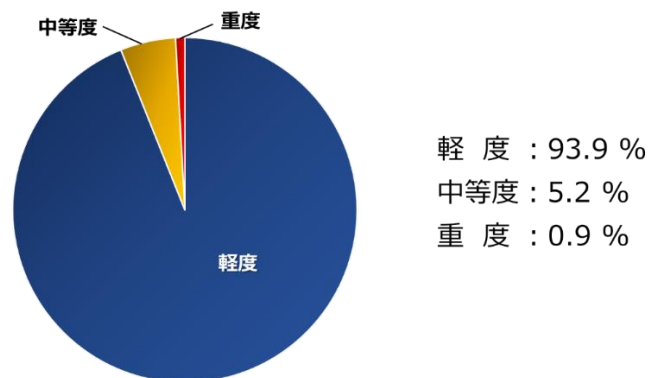


Fig.6 重症度の割合

【考察】

副作用発生率は、年間を通してほぼ同様の発生率であっても副作用発生は予測できず、季節による発生傾向はないと考える。また、造影剤によって発生率に違いはあったものの、全て2%以下であったことから、誤差だと考えられる。注入法に関わらず副作用は起こりうる可能性があると考えられる。ACR 分類において軽症だったとしてもその後重症化する恐れもあるため、その備えは必要であると考ええる。

重症度の分類において、重度は17,091件中2件であり、どちらもアナフィラキシーショックだった。使用造影剤はどちらも同じであったが、重度との関係はないと考える。

【結論】

造影CT検査における副作用は、そのほとんどが軽症であり、使用造影剤や性別、注入速度は発生に影響しない。

第 64 回鹿児島 CT 研究会 開催報告

南風病院 木村 圭佑

第 64 回鹿児島 CT 研究会を、2026 年 5 月 28 日(土) 18:30 から 20:30 まで、ウェブ視聴にて開催致しました。当日参加は、JART 会員 72 名、メーカー 7 名の計 79 名の参加でした。

今回は、4 月開催の ITEM(国際医用画像総合展)における内容をもとに、CT 装置メーカー 5 社より最新技術および将来展望についてご講演いただきました。

司会) 愛下 剛(大井病院)

メーカー発表

座長: 岩元 優樹 (鹿児島医療センター)

沖中 裕幸(川内市医師会立市民病院)

- ・ 富士フィルム CT 最新情報 ～ITEM2026 を中心に～

富士フィルムメディカル 高橋 大輔 様

- ・ AI 機能による CT 画像の最適化

フィリップスジャパン 小川 亮 様

- ・ フォトンカウンティング CT アップデート –実臨床で大活躍している現状–

シーメンスヘルスケア 佐々木 信治 様

- ・ GE HealthCare CT 最新情報提供

GE ヘルスケアジャパン 伊藤 祐斗 様

- ・ ITEM 展示報告 ～CT 最新情報～

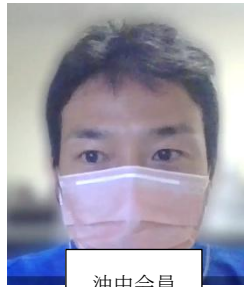
キャノンメディカルシステムズ 山岸 悠樹 様



愛下会員



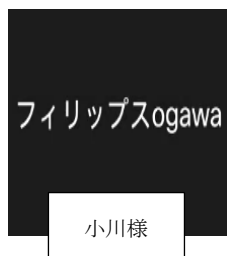
岩元会員



沖中会員



高橋様



小川様



佐々木様



伊藤様



山岸様

※フィリップスジャパン、GE ヘルスケアジャパンは研究会中のカメラ OFF にて写真なしで表示名のみ

メーカー発表内容

今回の ITEM における CT 装置メーカー講演は、5 社よりそれぞれ 20 分間、最新技術および将来展望について紹介がなされました。各社技術的アプローチやコンセプトに違いがみられるものの、共通していたのは AI 技術の積極的な活用による検査、画質、画像処理の高度化でありました。従来からの高画質化や低被ばく化に加え検査の標準化や業務効率化を実現するための自動化処理技術が発展していることが印象的でありました。また、デュアルエネルギーCT やフォトンカウンティング CT など技術の進歩により、形態情報だけでなく、定量的評価による診断精度向上への貢献が期待されていると感じました。さらに、検査件数増や人材不足を背景に、ポジショニングからプロトコル選択、撮影、画像作成、画像処理までを含めたワークフロー全体の最適化も各メーカーそれぞれ力を入れていると感じる内容でした。

各メーカーへチャット機能内で視聴者より質問がいくつかあり、質疑応答がなされていました。

最後に 5 社の発表終了後に、愛下会員の司会で、「画質・被ばく低減・スループット・操作性・耐久性・AI 統合のキーワードの中で今後の検査の質をどこに注ぎますか？」というテーマで各 5 社と総合討論がなされました。いずれも欠かす事のできない要素であるが、各メーカーでそれぞれ異なる視点から次世代 CT のあり方を提案していました。

開催を終えて

今回の研究会は、各 CT メーカーの最新情報提供でありましたが、鹿児島県内外の施設でこれから機器更新を考える上で参考になるだけでなく、これらの技術革新を積極的に学び、臨床へ還元していくことが重要であると感じました。

今年度は、内容の再考やウェブ配信のシステム更新などの都合もあり年 2 回を予定しております。

次回は冬頃の開催を予定しております。今後も鹿児島県における CT 技術の向上を目指し、企画や情報提供を進めてまいりますので、引き続きご参加・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

世話人：代表	愛下 剛	大井病院
	岩元 優樹	鹿児島医療センター
	沖中 裕幸	川内市医師会立市民病院
	木村 圭佑	南風病院
	二渡 智英	霧島市医師会医療センター
	濱田 智太郎	いまきいれ総合病院
	林 六計	鹿児島大学病院
	福留 慎也	米盛病院
	和田 敏弘	今村総合病院
	寺園 詩穂	鹿児島市立病院

第64回 鹿児島CT研究会

Web開催

150名

県内の登録者

2026

05/28

18:30-20:30

オンライン視聴可能
あり

Web配信

Web会議・オーディオでの配信

※配信はWeb会議・オーディオでの配信となります。ライブ配信は視聴のため、事前にアプリのダウンロード・インストールを済ませてください。

お申し込み方法

参加申し込みは専用WEBサイトから
<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/92af6c9b3e253.html>

QRコード

※参加費用※

無料：鹿児島県医師会理事・副理事・学生・一般（その他要）
500円：鹿児島県立中央病院医師会
1000円：メーカー・関係者
2000円：その他（※参加費別途要）

申し込み締切：5月25日(月) 19:00

※当日はWeb会議・オーディオでの配信となります。ライブ配信は視聴のため、事前にアプリのダウンロード・インストールを済ませてください。

※今回のテーマは、4月開催のITEM（鹿児島県医師会）における内容をもとに、CT装置メーカー4社より最新技術および将来展望についてご講演いただきます。

※会場は、本会にてCTの活用をいかに早く臨床でも活用できるかをテーマに、CT装置の最新技術と今後の展望についてご講演を頂きます。ぜひご参加ください。

18:30-18:35 開会挨拶 鹿児島CT研究会 幹事代表

18:35-20:20

2026 ITEM最新情報

プロット

富士フイルム
ヘルスケア
「富士フイルムCT最新情報～ITEM2026を中心～」
富士フイルムメディカル 高橋 大輔

フィリップス
・ジャパン
Precise ImageによるCT画像の最適化～低線量撮影と高画質の両立～
CTモダリティセールスベネチヤリスト 小川 亮

シーメンス
ヘルスケア
フォトンカウンティングCTアップデート～臨床で大活躍している現状～
シーメンス DI事業本部 CT事業部 佐々木 健治

GEヘルスケア
・ジャパン
タイトル【未定】
GEヘルスケア・ジャパン CT 部長

キヤノンメディカル
システムズ
「ITEM展示報告～CT最新情報～」
キヤノンメディカルシステムズ（株）九州支社 CT部長 山岸 悠樹

20:20-20:25

質疑応答

20:25-20:30 閉会挨拶 鹿児島CT研究会 幹事代表

幹事代表：大井病院（愛下） 川内市医師会立市民病院（沖中） 鹿児島大学病院（林） 米盛病院（福留）
会場：鹿児島CT研究会 鹿児島県医師会理事・副理事・学生・一般（その他要）
会場：鹿児島CT研究会 鹿児島県立中央病院医師会

問い合わせ先：095-824-2251（内線225） 大井病院 放射線科 愛下 剛

19

第 81 回鹿児島消化器画像研究会・第 30 回鹿児島超音波研究会 開催報告

令和 8 年 6 月 24 日（水）、WEB 開催にて第 81 回鹿児島消化器画像研究会・第 30 回鹿児島超音波研究会が合同開催されました。

～消化管 X 線プログラム～

鹿児島共済会南風病院 日高 稔

X 線検査の教育経験報告

「胃 X 線検査コミュニケーション術」

ヘルスサポートセンター鹿児島 藤田泰弘/市来絢乃

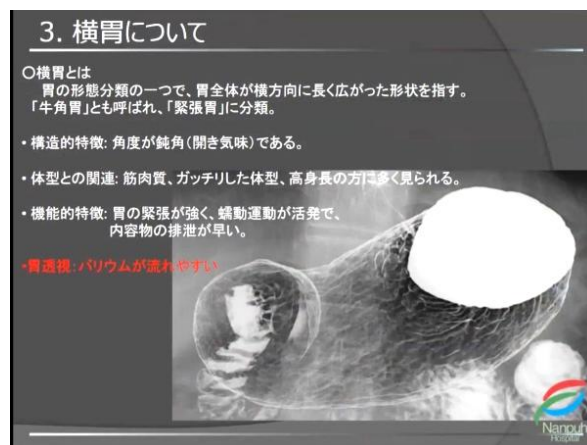
胃 X 線検査におけるコミュニケーション術について報告をしていただきました。被検者に迷いを与えず、安心環境を与え、スマートに手技を行うためには、声掛けが重要になります。検査を早く終わらすために、早口になっていたり、装置を動かしたりすることで検査への不安感が多くなります。検診においては毎年、安心して実施していただくためにも不安を達成感に替えることが、検査の質の向上にも寄与すると思われます。胃 X 線検査に限らず、また初心者だけでなく、ベテランの方にも改めて初心に戻れる内容でした。



「初心者が陥りやすい横胃の胃透視 学んだ対策ポジショニング」

南風病院 園田光一

胃透視検査を始めて半年で学んだ内容の経験報告として、横胃のポジショニングについて報告をしていただきました。初学者において、横胃のとき通常の胃と比べて十二指腸へのバリウムの流出しやすくなることからパニックとなりやすくなります。寝台角度や体位変換を考慮することで流出を減らし、検査をスムーズに行うことができるようになった事例を紹介していただきました。今後、経験数を増やし、検査時間の短縮や以上所見の拾い上げなど、所見に合わせた撮影ができるようになればと思います。



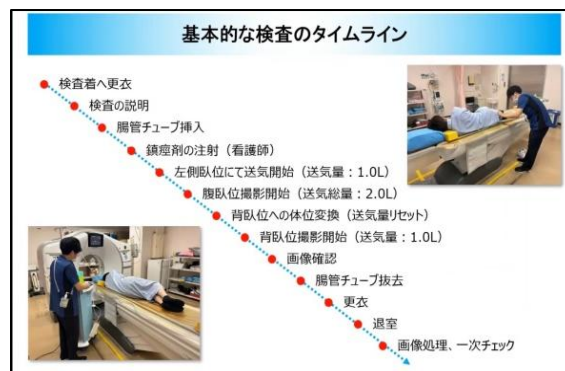
「当院の CT-colonography 検査の流れについて」

南風病院 上川智弘

CTC 検査の推移、内訳、検査状況について発表がありました。チューブ挿入も技師が行うことができるようになり、CTC 検査における技師の役割がより大きくなったと思われます。腸管拡張の評価や体位変換など、撮影する技師の判断となるため、より知識や経験が必要となります、腸管拡張のコツや追加撮影のポイントを、事例を交えて報告していただきました。

今回、コミュニケーション術や横胃における対策を初学者より発表していただきました。改めて聞くことで、今後の教育にも繋がる内容であったと思います。CTC検査においても技師の役割は大きく、適切な判断・検査の管理が求められます。実際に実施している施設・していない施設においても有益な内容であったと思います。

今後も臨床に役立つ内容や、施設間の技師の共有ができるような研究会となるように努めたいと思います。



～超音波プログラム報告～

霧島市立医師会医療センター 塩屋 晋吾

第2部の超音波プログラムは、①症例報告 2 演題、②ミニレクチャーの2部構成で企画しました。

まず初めに、南風病院の柳川 絢海さんから

「超音波検査を契機に発見された十二指腸潰瘍の1症例」についてご報告いただきました。食後の心窩部痛を主訴とする患者さんに対し、胆嚢や膵臓をはじめとした食後の腹痛の原因となり得る疾患を念頭に観察を進める中で、十二指腸の著明な壁肥厚を発見し、速やかな診断・治療につながった症例でした。十二指腸壁は正常では非常に薄い構造であることから、本症例のような著明な壁肥厚に遭遇した際には、潰瘍性変化を反映した所見である可能性を考慮する必要があります。十二指腸潰瘍を超音波で直接捉え、診断の契機とすることの有用性を改めて認識できた症例でした。



2症例目は、鹿児島厚生連病院の梅北 陽平さんから「骨盤内膿瘍の一例」についてご報告いただきました。子宮留膿症を契機として、卵管を経由、あるいは子宮壁から直接付属器へ感染が波及し、右付属器に膿瘍が形成された後、さらにそれが穿破することで、骨盤内に広範な膿瘍形成を来した可能性が示唆された、大変興味深い症例でした。検査時点において、その一連の過程を実際に追跡することは困難です。しかし、検査時に得られた所見を丁寧に観察し、それぞれの所見をつなぎ合わせながら、「どこを起源として、どのような経過で現在の病態に至ったのか」を物語として組み立てることも、超音波検査における重要な役割であると再認識できた貴重な症例でした。



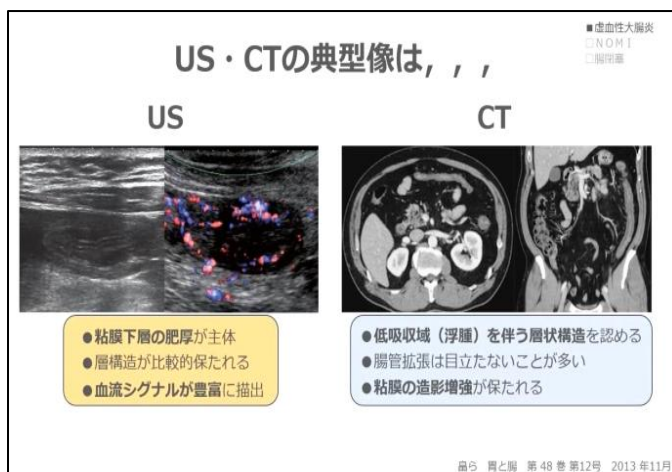
続いて、霧島市立医師会医療センターの池田隆太さんから

「私が調べたこと聞いてください～第 6 回腸管虚血編～」をご講演いただきました。腸管虚血について、「どの血流が、なぜ障害されたのか」という視点から、虚血性腸炎、非閉塞性腸管虚血 (NOMI)、腸閉塞を中心に、実際の症例を交えながら、それぞれの病態における虚血のメカニズムと、超音波検査で注目すべき所見について分かりやすく解説していただきました。

特に、絞扼性腸閉塞に伴う動脈性虚血では、腸管壊死に至るまで時間との勝負となります。そのため、わずかな異常所見を見逃さない観察力に加え、検査所見を速やかに臨床へ伝え、手術を含めた適切な治療へつなげるためのコミュニケーションが極めて重要であることを学ぶことができました。

今回の発表はいずれも、日々の臨床現場で培われた観察眼と、得られた所見を病態へ結びつけて考える力に基づいた内容であり、臨床に直結する「超音波の力」を改めて認識させてくれるものでした。超音波検査の価値を十分に発揮するためには、所見を見つける技術だけでなく、その所見が何を意味しているのかを考え、臨床へ的確に伝える力も求められます。

今後も、「臨床に活かす超音波」を大切にしながら、参加された皆さんが新たな学びを持ち帰り、翌日からの検査に活かすことのできる会となるよう努めていきたいと思っています。



第 27 回鹿児島県放射線治療技術研究会 開催報告

奥 好史(鹿児島大学病院)

第 27 回鹿児島県放射線治療技術研究会は、令和 8 年 7 月 4 日(土) 12:30 より公益財団法人慈愛会オハナビル 3 階大会議室で開催されました。県内外より 63 名と多くの診療放射線技師、医学物理士、関連企業の皆様にご参加いただき、盛会のうちに終了しました。

本研究会では、午前中に実機講習として今村総合病院ガンマナイフセンター様のご協力のもと、「ガンマナイフセンターとガンマナイフの紹介」と題して施設見学を実施しました。

事前に参加希望者を募集したところ、40 名もの申し込みがあり、参加者を 3 グループに分けて見学を行いました。実際の装置見学に加え、治療計画やガンマナイフ治療の特徴について活発な質疑応答が行われ、参加者にとって理解を深める大変有意義な機会となりました。



うまみセッション①では、「標準計測法 24」をテーマに掲げ、東洋メディック株式会社の北島重紀氏が「標準計測法 24 は、始めてますか？」と題して講演を行いました。標準計測法 24 の基礎的な内容に加え、測定時に陥りやすいピットフォールについて分かりやすく解説いただきました。続いて、相良病院の櫻井なるみ技師より、「標準計測法 24」の実臨床における運用経験についてご講演いただき、導入から運用に至るまでの実践的な知見が共有されました。**うまみセッション②**では、今村総合病院の高山大史技師が RTT 試験の受験経験をもとに、試験対策や出題傾向、学習方法などについて分かりやすくご紹介くださいました。放射線治療専門放射線技師を目指す方や若手技師にとって、今後の受験や日々の自己研鑽に役立つ非常に有益な内容となりました。

情報提供セッションでは、株式会社バリアンメディカルシステムズ、エレクトラ株式会社、Brainlab 株式会社、株式会社千代田テクノルの 4 社より、最新の放射線治療技術や体表面画像誘導放射線治療を用いたマーカーレス運用の工夫、新たな線量分布測定器に関する講演が行われました。各講演では、最新技術の臨床応用や導入事例、今後の技術展開について紹介され、参加者との間で活発な意見交換が行われました。

教育講演では、鹿児島大学病院の岩元 亮太技師より「診療報酬 2026 を紐解く」と題し、今年度の放射線治療領域の診療報酬改定について、疑義解釈を交えながら、実務上の留意点や算定におけるポイントについてご講演いただきました。続いて、熊本放射線外科の前田達也技師より、「定位放射線治療について」と題し、前立腺および脊椎をテーマに治療計画における留意点や実践的な工夫についてご講演いただきました。制度面と臨床面の双方から最新の知見を学ぶことができ、参加者にとって放射線治療に関する理解をより一層深める有意義な教育講演となりました。

特別講演では、今村総合病院ガンマナイフセンター 八代一孝先生より、「ガンマナイフ治療の特性と進歩、そして治療効果」と題したご講演を賜りました。ガンマナイフ治療の歴史的変遷から最新技術、臨床成績に至るまで幅広くご紹介いただき、ガンマナイフ治療の特性や優位性について、豊富な臨床症例を交えながらご解説いただきました。先生の長年にわたるご経験に基づく知見は非常に示唆に富む内容であり、参加者一同にとってガンマナイフ治療への理解を一層深める、大変有意義で学びの多い貴重な講演となりました。

研究会終了後には**情報交換会**を開催し、施設間交流や情報共有を深める場となりました。

鹿児島県放射線治療技術研究会では、今後も現地開催を中心として、ハイブリット開催を視野に入れながら、県内の放射線治療担当者間での交流や情報共有の機会をさらにイケイケドンドンで広げていけるように努めていく所存であります。

次回以降も多くのご参加を得られるよう、引き続き充実した会の運営に努めていく予定です。最後に、ご講演いただいた先生方、ならびに運営にご協力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。



●開催日時 令和8年7月4日(土) 12:30~17:40

●場所 公益財団法人慈愛会 オハナビル 3F 大会議室

【内容】

1. 実機講習 12:30 - 14:00 ガンマナイフセンター：(30分×3グループ)

「ガンマナイフセンターとガンマナイフの紹介」 山元 清史 先生(今村総合病院)
堀之内 隆夫 先生(今村総合病院)、蓑田 辰則 先生(今村総合病院)

2. うまみセッション① 14:05 ~ 15:05

座長 新山 雄志(鹿児島大学病院)

「標準計測法 24 は、始めてますか？」

北島 重紀 先生(東洋メディック第一事業本部 RT 物理課 兼 技術一部 福岡技術一課)

「標準計測法 24 を実際にやってみました」 櫻井なるみ 先生(相良病院)

3. うまみセッション② 15:05~15:20

座長 小屋 俊彰(いまきいれ総合病院)

「RTT 試験を経験して」 高山 大史 先生(今村総合病院)

4. 情報提供 15:20~16:05

座長 奥西 達也(鹿児島市立病院)

・Varian の Treatment & Imaging Technology

山梨 宏一 先生(株式会社バリアンメディカルシステムズ)

・Catalyst と Sentinel を用いた SGRT の臨床応用

土屋 子夏 先生(エレクトラ株式会社プロダクトスペシャリスト)

・臨床における ExacTrac Dynamic Surface の有用性 小島 健吾 先生(BrainLAB 株式会社)

・シンチレーター式線量分布測定器(Dose Scope) 山口 義樹 先生(株式会社千代田テクノル)

5. 教育講演 16:10~16:35

座長 若松 重良(鹿児島大学病院)

「診療報酬 2026 を紐解く」

岩元 亮太 先生(鹿児島大学病院)

「定位放射線治療について」

前田 達也 先生(熊本放射線外科)

6. 特別講演 16:40~17:40

座長 奥 好史(鹿児島大学病院)

「ガンマナイフ治療の特性と進歩、そして治療効果」

八代 一孝 先生(今村総合病院 ガンマナイフセンター室長)

第24回鹿児島県医療情報システム研究会 &

令和年8度鹿児島県医療画像情報精度管理士部会 合同開催報告

鹿児島県医療画像情報精度管理支部会 武宮 太

第24回鹿児島県医療情報システム研究会&鹿児島県医療画像情報精度管理士部会 合同開催をハイブリッド配信(現地+Web)にて、2026年7月18日(土)14:30~17:30で開催いたしました。(会場:鹿児島市立病院 多目的ホール)

研究会プログラムは以下の通りです。

14:30~ 開会挨拶 鹿児島県医療画像情報精度管理士部会 部会長 武宮 太

鹿児島県医療画像情報精度管理士部会 活動報告 大井病院 副島恭平 氏

14:35~ 講演1「放射線領域における医療DXを支える医療情報人材の育成~福岡大学病院の取り組み~」

福岡大学病院 放射線部 技師長 上野登喜生 氏

15:30~ 講演2「鹿児島大学病院:RISのメッセージ送信機能を用いた病棟連絡業務の効率化への試み」

看護師の立場から 鹿児島大学病院 病棟看護師 松田智子 氏

診療放射線技師の立場から 鹿児島大学病院 医療技術部 山下貴大 氏

16:20~ 講演3「昨日より少し、働きやすい現場へ。」

~『ラジくる』運営から学んだ、僕らにできる小さな改革」

診療放射線技師向け情報サイト「ラジくる」運営責任者 山口勝也 氏

17:30~ 閉会挨拶 鹿児島県医療情報システム研究会 代表世話人 若松重良

参加者は200名(現地参加28名、Web参加172名)となり、大盛況でした。懇親会も20名の参加があり、とても盛り上がりました。

【質疑応答】

Q.今後、医療情報システムを支える人材について、どのような人材を採用するか構想などありますか？

A.資格を持った人がすぐ活躍できるというわけでもないのですが、現在ある人材で興味を持ってくれる方を育てていくのがいいのではないかと？

Q. RISと電子カルテを連携させて患者さんの呼び出し連絡を行う仕組みについてご紹介いただきました。その際、システムの同時導入とのことでしたが、導入にあたって具体的にどのような要件(調達要件など)をそれぞれのベンダーに提示されましたでしょうか？

A.元々あるシステムの拡張利用なので、何かシステムの手に加えたわけではない。

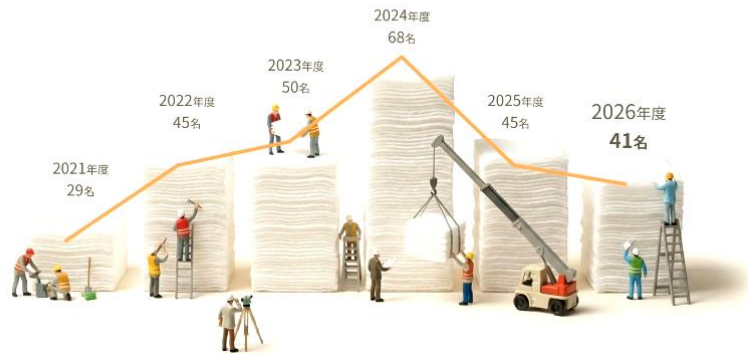
【次回案内】第25回鹿児島県医療情報システム研究会 2027年7月17日(土)を予定。

令和9年度鹿児島県医療画像情報精度管理士部会の日程は未定。

医療画像情報精度管理士（鹿児島県認定者数）



大井病院 副島氏



福岡大学病院 上野登喜生氏

結びに — これからの人材育成

「伝える」だけでなく、「育てる」へ。

変化の速いDX時代を生き抜く、次世代型の組織運営とリーダーシップを一緒に目指しましょう

経験の継承
培ってきた知見と経験を、
次代へ丁寧に伝える

自走する学び
自ら学び続ける人材を
育てるという視点

支えるリーダーシップ
サーバントリーダーシップ
× コーチング

徒弟制度の先にある、これからの組織のかたち。

CASE
出会ったことのない症例への対応 時間軸で分解してみる

	改善余地？	
前日	①教育状況を共有	「新人教育で経験済み、未経験の症例」をチームで把握し合えている？
	②過去症例を参照できる仕組み	その症例の撮影プロトコルや注意点（ボジショニング、コイル選択、シーケンス）に、新人が自力でアクセスできるか？
当日	①先輩同僚のサポート	担当の先輩が不在の際、代わりに「誰が、どこまで」新人をサポートするか、役割が明確か？
	②質問できる雰囲気	新人が他の先輩（普段1対1で教わっていない人）に対して、躊躇なく「助けてください」と言える雰囲気があるか？
後日	①経験を貯める仕組み	今回「なんとか乗り切った」知見を、次の新人のためにマニュアルやシステムに還元できているか？
	②症例を振り返る	担当の先輩が戻った際、当日の画像や手順の「答え合わせ」をする機会・仕組みがあるか？

ラジくる

TURNING POINT
大学院で学んだこと（ロジカルシンキング：論理思考）

MECEを検討する際によく使われるパターン

- 対立関係（“A”と“Not A”）
 - ・地域：都市部と地方、東西南北、沿岸部と山間部 等
 - ・人の属性：性別、年齢、職業 等
 - ・時間/期間：短期と中期と長期、過去と現在と未来 等
- 因数分解
 - ・利益 = 売上 - コスト
 - ・売上 = 利用者数 × 利用頻度 × 平均単価
 - ・コスト = 固定費 + 変動費
- プロセス
 - ・会議 = 事前準備 → 会議運営 → 進捗確認
 - ・製品開発 = 概念設計 → 詳細設計 → 開発 → テスト
 - ・販売 = 告知 → 問い合わせ → 商談 → 受注 等
- フレームワーク

「ロジカルシンキング」漏れなくダブリなく整理できるフォーマット

抜け漏れなく、発生した事象を分解し整理するための切り口

↓

地域、性別、年齢、時間軸 5W1Hなど
(いつ、どこで、だれが、なにを、どのように)

ラジくる



ラジくる運営責任者 山口勝也氏

第 32 回 鹿児島 MRI 研究会 開催報告

鹿児島大学病院 大塚 洋和

第 32 回鹿児島 MRI 研究会は、令和 8 年 7 月 25 日（土曜）14:00 より鹿児島市立病院にて現地開催および Web 配信によるハイブリッド開催を行いました。今回は、各メーカーより『ITEM2026：MRI 最新情報について』に関する情報提供講演、そして『緊急 MRI 体制について』をテーマにした施設発表の 2 部構成で以下のプログラム構成で開催し、現地 59 名、WEB23 名の合計 82 名の参加がありました。

- 開催日時 令和 8 年 7 月 25 日（土曜）14：00 ～ 17：30
- 場 所 鹿児島市立病院（ハイブリッド開催）

【内容】

1. 開会の挨拶 代表世話人 大塚 洋和
2. メーカー講演 14：00～16：10 座長 池田 真一、迫田 和也
『 ITEM2026：MRI 最新情報について 』
 1. バイエル薬品株式会社 中神 龍太郎
 2. キヤノンメディカルシステムズ 中村 洵太
 3. シーメンスヘルスケア 諸井 貴
 4. フィリップスジャパン 大西 開
 5. GE ヘルスケア・ジャパン 三浦 功平
 6. 富士フイルムメディカル 下村 幸平
3. 施設発表 16：20～17：30 座長 浮田 啓一郎、高田橋 司
テーマ『 緊急 MRI 体制について 』
 1. 鹿児島市立病院 安永 勇太
 2. 米盛病院 森川 篤志
 3. 霧島市立医師会医療センター 松元 祐樹
 4. 鹿児島医療センター 竹尾 晃一

メーカー講演では、バイエル薬品株式会社より新しい Gd 造影剤「アムベルビスト」のご紹介をいただきました。従来の Gd 製剤と比較して Gd 量を 60%削減しながらも、同等の造影能が担保されているとのことでした。また、MRI メーカー5 社（キヤノン、シーメンス、フィリップス、GE、富士フイルム）からは、近年の AI 技術の進歩を反映した各社独自の最新 MRI 技術についてご講演いただきました。各社 20 分という限られた時間ではありましたが、非常に濃密な情報をご提供いただきました。

続く施設発表では、「緊急 MRI 体制について」をテーマに、鹿児島市立病院の安永技師、米盛病院の森川技師、霧島市立医師会医療センターの松元技師、鹿児島医療センターの竹尾技師の 4 名にご発表いただきました。

・安永技師（鹿児島市立病院）：脳卒中の画像診断や STAT 画像について。STAT 画像に関連した報告マニュアルの作成と実際の運用についてご報告いただきました。

・森川技師（米盛病院）： 自院における緊急 MRI 体制や、頭部緊急 MRI プロトコルを中心に解説。SIEMENS 社の 3D radial GRE シーケンスを用い、1 分強で大動脈弓部の矢状断・横断像を撮像することで、急性大動脈解離の早期否定に活用されているとのことでした。

・松元技師（霧島市立医師会医療センター）： 緊急 MRI 体制に加え、スタッフの教育体制について。症例ごとの教育資料やマニュアルの整備など、大変参考になる取り組みをご提示いただきました。

・竹尾技師（鹿児島医療センター）： 緊急 MRI 体制の紹介とともに、デバイス（ペースメーカー等）植込み患者への緊急対応について。今後、メーカーによるモード切り替え対応が困難になる背景を踏まえ、臨床工学技士との連携体制の構築を進められているとのことでした。

その後のディスカッションでは参加者を交えた活発な質疑応答が行われ、大変盛況のうちに閉会いたしました。また、続く情報交換会にも 33 名のご参加をいただき、情報共有や若手技師間の親睦を深める貴重な機会となりました。

鹿児島 MRI 研究会では、自施設だけでは知り得ない他施設の運用状況を共有できる場として、今後もみなさまにご活用いただける企画を提供してまいります。

次回も現地開催を予定しております。ぜひ現地へ足をお運びいただき、情報交換会までご参加いただけますと幸いです。より充実した研究会運営を目指してまいりますので、引き続きご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。（ご意見・ご要望も随時お待ちしております。）

【開催の様子（施設発表と情報交換会）】



代表世話人：鹿児島大学病院 大塚 洋和

世話人：いまきいれ総合病院：池田 真一、浮田 啓一郎/鹿児島医療技術専門学校：迫田 和也/

南風病院：高田橋 司/米盛病院：森川 篤志/鹿児島市立病院：安永 勇太

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 令和 8 年度第 1 回 常務理事会 議事録(抄)

日時 令和 8 年 5 月 11 日 19 時 00 分 ～ 21 時 00 分

場所 Web 開催(Webex)

出席理事：(Web 会議システムを通じての出席)

大迫 俊一・渡邊 義治・恵 智徳・市来 守・
木原 悠太・藤崎 誠・東 幸浩・米重 亮馬・
木場 淳

欠席理事：なし

議長：会長 大迫 俊一

開会：議長により令和 8 年度第 1 回常務理事会の開催が宣言された。

第1号議案

各常務理事より次回理事会議案について協議事項がないか確認を行った。

1. 会長

(1)総会の準備状況について

2026 年 5 月 31 日に開催される第 105 回定時総会の準備状況について現状報告があった。議決権行使書(ハガキ)の準備として、5/10 までに 618 名分を作成したことが報告された。ハガキについては、5/12 に 441 名分を発送し、残りの 177 名分については、県理事が在籍する施設の会員であり、郵送料削減のため、各理事は会長の元へ取りに来ていただきたいとの意向が示された。日本診療放射線技師会(JART)の地域役員功労賞として、野中康博様を受賞されたことが報告された。賞状と副賞については、5/31 までに表彰状のみ届く予定であり、表彰状が間に合えば、総会当日に表彰する意向が示された。鹿児島県診療放射線技師会表彰(特別功労賞)として太田原美郎監事が対象となることが提示され、総会の際に表彰を行い、賞状と副賞を贈呈することが報告された。また、電子投票について作成・準備が完了していることが報告された。また、「電子投票についてのお願い」を LINE に流して広報する予定であり、会報が届く頃に実施する方針が提示された。看板と垂幕については、5/12 に前田工芸へ依頼を行う予定であり、懸垂幕等のデータ原本については、大迫会長から藤崎誠理事へ提供することが報告された。配信については、大迫会長と戸川理事が担当し、当日早めに会場入りして準備することが報告された。その他、受付・マイク・電気などの係は、総会当日の出席者を確認した後、理事の中から 2 名程度に割り振る方針が周知された。総会進行マニュアルについては、市来理事と恵副会長へ依頼していることが周知された。正議長と副議長は、昨年と同じ 2 名(鹿児島市立病院 隈様、南風病院 井ノ上様)に役割を交替して務めてもらうことを依頼済みであるこ

とが報告された。「第 20 回 九州放射線医療技術学術大会 in 鹿児島大会」の表彰(対象 3 名、フレッシュアズ賞：今村総合病院 福田萌乃様、優秀賞：鹿児島大学病院 元日田調様、学術奨励賞：今村総合病院 馬場隆行様)として、春季学術大会内で表彰式が行われることが報告された。受賞者の賞状は準備済みであり、馬場様については別途、基調講演に対する謝金を支払う方針で出席理事の同意が得られた。次年度の総会日程について、2027 年 6 月 13 日(日)・20 日(日)を仮予定とし、鹿児島市立病院で行う案が提示された。併せて、大迫会長より、土曜日の午後の開催案も提案されたが、課題を勘案して引き続き検討する方針で周知された。

(2)JART 学術委員について

JART 地域理事会議にて学術に関する活動についての話し合いがあったことが報告された。内容として、告示研修の各地区開催の終了、各種研修会のオンデマンド化、フレッシュアズセミナーの入会促進事業への移行を受けて、2026 年度はそのまま継続するが、2027 年度は廃止する方針であることが報告された。九州地域学術教育委員活動については、2027 年度以降継続するか会長会議にて話し合いを行い、方針が決まったら改めて報告することが周知された。

(3)PassMarket 終了に伴うイベント申込・チケット販売システムの変更について

PassMarket 終了に伴う 7 月以降の代替システムへの変更について、現在検討している EventRegist について、他の運営サイトと比較した概要の説明があった。運用におけるデメリットとして、登録フォームのカスタムや申込確認メールが有料であるため、入力方法や運用方法を変更する必要があることや、財務管理や各研究会の会費入金の際の重複の可能性があるため、EventRegist 専用の口座を開設することなど対策が必要であることが周知された。7 月以降の直近のイベント(現地開催のみを除く)として、鹿児島県医療情報システム研究会の合同開催が予定されているため、試用する方向で調整を進めることが周知された。

(4)各種イベントへの参加について

これまで日本診療放射線技師学術大会、九州放射線医療技術学術大会、FRT 九州に関しては、会長のみもしくは会長と学術委員で参加していたが、今年度から、予算等を考慮して理事から 1 名追加して参加する方針が提案された。具体的な内容として、今年度の日本診療放射線技師学術大会(山形)は、予算・ホテルの都合で会長 1 名の参加としたが、九州放射線医療技術学術大会(沖縄)から会長に加えて理事 2 名が参加する案が提示された。参加理事の選定については、担当者を前年度の 9-10 月理事会で決定する意向が示された。また、今年度の日本診療放射線技師学術大会(山形)について、4 月 30 日が登録締め切りであり、座長候補者の選出を行ってい

ることが報告され、今村総合病院の馬場様(一般撮影関連に限る)と、CT分野で米盛病院から推薦があったことが報告された。座長候補者について、来年度からは、翌年分の候補者を事前に決定し、計画的に進める予定であることが周知された。

(5) 市民健康まつり担当者の増員について

市民健康まつりの担当者について、これまで担当者は1名としていたが、引継ぎ等を考慮して今年度から2名体制(任期は原則2年)とし、脇田理事に加えて東理事に担当してもらうことで承諾いただいた。なお、今年度から骨密度測定は装置1台体制で行うことも併せて周知された。

(6) 鹿児島地域研修会(学術賞)・フレッシューズセミナー・懇親会について

鹿児島地域での学術集会とフレッシューズセミナーを、懇親会を含む終日コースとして7月または8月に開催したいという意向が提示された。方針として、地域理事と学術理事を中心に内容・日程・会場を詰めていただきたいとの意向が示され、会場の予約が取れない場合は、相良病院や宝山ホールも検討することが周知された。また、研修会の方向性として、会員以外も参加可能とし、30代を中心とした若手会員を懇親会などで引き入れることで、鹿児島県診療放射線技師会の運営に新しいアイデアを取り入れたいという意向が周知された。また、懇親会を含む終日のイベントにメーカーを招待する意向も併せて提示され、費用の徴収方法を検討したいとの説明があり、多額の協賛金を出してくれているメーカーに対して、何らかの優遇策を講じるべきではないかとの提案も挙がった。本件については、引き続き検討を進める方針となった。

(7) ワクチン筋注行為講習会の定期開催について

ワクチン筋注行為講習会について、昨年度は学術大会で1回目の講習会を実施し、2回目は霧島・姶良地域研修会にて実施された。今年度は、大島での開催を予定しており、愛下理事と大迫会長で支援することを検討しているとの報告であった。また、各地域の理事に対し、開催の意向を確認する事が提示され、少なくとも全地域で1周以上は実施したいとの意向が提示された。

2. 副会長

特になし

3. 総務理事

特になし

4. 財務理事

(1) 免除決定者・減額決定者について

免除・減額・有期免除(出産・育児休暇中)の対象者について、人数のみ報告があった。

(2) 令和7年度収支決算報告について

令和7年度の収支決算報告として、公益法人の財務3基準(収支相償・遊休財産額保有制限・公益目的事業比率)に

ついて報告があり、令和7年度は、公益法人の認定を維持するための要件をすべて満たしていること周知された。また、増加分の46,049円に関しては、事務所積立金振替を行わず、流動資産として現金にてプールしていることが併せて報告された。

5. 学術理事

新規研究会の加入について、鹿児島血管撮影技術研究会が鹿児島県診療放射線技師会に加入する希望があるとの報告があった。現在、大迫会長より、理事会で協議できるように立候補し、資料提出いただくよう代表に伝えていることが周知された。

6. 福利厚生理事

ホームページの更新について、更新内容の担当者に「会報バックナンバー」「定款・諸規定一覧」などのページ更新を依頼し、既にデータも送付済みであることが周知された。更新の内容について、会報の過去分と最新号を公開については、会報のデータ容量が非常に大きいため、まずは直近5年分から公開を進めることが報告された。今後の更新予定として、求人情報に関するものなど順次進めていく予定であることも周知された。

7. 編集・広報理事

大迫会長より、会報の電子化による経費削減として、電子化により、来年度以降のメーカーへの発送分はPDFで対応できないか交渉する意向であることが報告された。紙面での郵送を希望もあり、紙面の作成自体を止めることはできないが、電子化を進めることで年間で約30万円程度の経費削減が見込めるとの説明があった。

8. 表彰理事

今年度の鹿児島県の叙勲申請について、方針の協議が行われた。申請は、鹿児島県が先行して推薦を決定した人に対して、別途資料の要求が行われるとの見解が示され、現状は準備として送られてきた書類の対応のみで良いことを確認し、締め切りに間に合うとの報告があった。推薦書類の提出期限と追加準備として、県が国に提出するのが6月12日頃との説明があり、県から連絡が来た場合、資料の準備で慌ただしくなる可能性があることが懸念された。特に、懲罰に関する証明を鹿児島市に依頼する必要がある、費用を要する可能性があるため、実際に県から連絡が来てから対応する方針となった。

9. 組織理事

(1) 会員動向について

前回理事会報告以降(2026年3月8日～2026年5月9日)、入会2名、再入会2名、退会13(除籍6)名、転入6名、転出5名、勤務先施設情報登録0件、勤務先施設情報変更2件の処理を行ったことが報告され、2026年5月9日現在の正会員数は618名であることが周知された。2025年度は2024

年度の総会員数を下回り、2026 年 4 月以降も減少傾向が続いていることが周知された。会員維持の必要性として、現状の推移では、会員数が 500 名を切る可能性も危惧されるため、「県技師会のみ」の導入と対面での接点を増やす環境作りを進めたいとの意向が提示された。具体案として、「県技師会のみ」の入会については、会員区分を来年度に導入し、JART のライブラリーなどの充実したコンテンツを広報し、県技師会から JART への入会を促す流れを作りたいとの意向が示され、県技師会の会員数 700 名を目標としたいとの意向が提示され、課題の洗い出しを、5 月 31 日の総会後から次回の理事会前までに行うことが周知された。入会促進の方針として、対面活動の重視が提示され、入会しやすい環境を整えたいとの意向が示された。また、入会促進の広報手段として、LINE の運用方法を複数名で管理するなど改善し、積極的に情報を発信したい意向が提示され、研究会のライブラリーの閲覧可能情報を会報発送後に LINE で改めて発信することなどが提案された。また、若手が発表する機会をサポートするようなセミナーを通じて、入会を促すことも提案された。加えて、2026 年度の新卒の入会状況が現時点で 0 名であることが報告され、LINE を活用するなど広報を行うことが提案された。

(2) JARTIS 退会申請の 1 例について

JARTIS 退会申請にて、年会費未納なしを確認し県三役承認後に退会申請を「受理」したが、「退会する組織日本診療放射線技師会のみ退会する(所属都道府県技師会は会員を継続する)」となっているとの指摘があり、現時点で同時退会以外の退会手続きができないため退会取消を JART 事務局へ依頼した案件の説明があった。該当会員にはお詫びし、退会取消後は入会を継続することを確認したとの報告であった。

(3) 2025 年度物故者確認について

JART 事務局より 2025 年度物故者確認があり、1 名であったことが報告された。

(4) 退会申請未処理者について

2026 年 4 月 3 日に、JART 事務局より 1 月 9 日受付の退会申請が未処理であるとの指摘があり、急遽「受理」処理を行い、県三役へは後承認としたことが報告された。対象の申請者については、謝罪のメールをより送信したことが報告された。本件については、今年度の新しい JARTIS システム運用開始後に、県技師会または JART での手続きの一本化が行えないか議論したいとの意向が示された。

(5) 転入・転出時の会費差額の取り扱い

合算請求後転入会員に関して「今年度の年会費は貴県にて再請求お願いします」と申請された会員 2 名がすでに転出元で会費を納入していた事例の説明があり、JART としては納入された金額をそのまま当県へ振替し、差額の返金を行わないと回答があったとの報告があった。差額調整に関しては木

原理事へ対応依頼し、原則として返金対応は行わないことになっていましたが、今回は返金対応を行う方向で進めていることが周知された。

(6) 男性の育児休暇に関する取り扱いについて

男性の育児休暇の取り扱いについて質疑があり、前回の理事会で、1 年間は会費を免除する方針が決定しており、規定に明文化する予定であることが周知された。最近では男性の育児休暇取得者が増えており、特に短期間の取得が増えることが予想されるとの見解が示された。

第2号議案 その他

(1) 環境測定事業について

2026 年 4 月 28 日に新規の環境測定事業(漏洩線量測定)の依頼があったことが報告された。依頼施設は歯科クリニックであり、費用について説明を行ったところ、検討しますとの回答があったとの報告であった。

(2) 総会の開催時期の見直しと医療団体との連携

今年の総会が 5 月 31 日となったことで、連休の影響もあり理事会が直前になってしまったことを受け、来年からは総会の準備に追われることなく開催できるよう、6 月中旬頃を目標に総会を開催したいとの意向が示された。また、今後の総会では、看護協会、医師会など、他の医療団体の代表者が集まる連携の場を設けたいとの意向が示された。

閉会

議長より全ての議事が終了し、令和 8 年度 第 1 回 常務理事会の閉会が宣言された。

令和 8 年 05 月 11 日

会 長 大迫 俊一

副会長 渡邊 義治

理 事 米重 亮馬 ・ 木場 淳

議事録作成者 理 事 市来 守

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 令和 8 年度 第 1 回理事会 議事録(抄)

日時:令和 8 年 5 月 12 日(火)

場所:Web 開催(Google meet)

出席理事:

(Web 会議システムを通じての出席)

大迫 俊一・渡邊 義治・恵 智徳・市来 守・
木原 悠太・藤崎 誠・東 幸浩・米重 亮馬・
木場 淳・脇田 慎一・四本 斉・吉田 紫織・
愛下 剛・本村 克朗・戸川 憲二・武宮 太・
藤村 卓也・屋部 太輔・木佐貫 克朗・
藤崎 拓郎・坂口 右己・熊谷 繁夫・元 俊晶

欠席理事:竹尾 晃一

出席監事:太田原 美郎

議長:大迫 俊一

開会:議長より理事の過半数以上が出席しており、令和 8 年度
第 1 回理事会の開催が宣言された。

第1号議案 会長・副会長・各常務理事による活動報告(第 16 条 7 項)

会務について大迫会長から説明があった。(別紙 1:会務報告参照)

1. 会長

(1) 総会の準備状況について

2026 年 5 月 31 日に開催される第 105 回定時総会の準備状況について現状報告があった。議決権行使書(ハガキ)の準備として、5 月 10 日までに 618 名分を作成したことが報告された。ハガキについては、5 月 12 日に 441 名分を発送し、残りの 177 名分については、県理事が在籍する施設の会員宛となっており、郵送料削減のため、各理事は会長の元へ取りに来ていただきたいとの意向が示された。また、ハガキには可能な限り電子投票の利用を推奨する旨が記載されていることが併せて報告された。日本診療放射線技師会(JART)の地域役員功労賞について、野中康博様が受賞されたことが報告された。賞状と副賞については、5 月 31 日までに表彰状のみ届く予定であり、表彰状が間に合えば、総会当日に表彰する意向が示された。鹿児島県診療放射線技師会表彰の特別功労賞として太田原美郎監事が対象となることが提示され、総会の際に表彰を行い、賞状と副賞を贈呈することが報告された。電子投票について、作成・準備が完了していることが報告された。また、「電子投票についてのお願い」を LINE に流して広報する予定であり、会報が届く頃のタイミングを見計らって実施する

方針が提示された。総会進行マニュアルについては、市来理事が作成しており、現在内容について大迫会長が査読と確認を進めていることが周知された。監事用の資料(令和 7 年度監査報告)については、総会当日木原理事から太田原監事へコピーを渡すことが周知された。正議長と副議長は、昨年と同じ 2 名(鹿児島市立病院 隈様、南風病院 井ノ上様)に役割を交替して務めてもらうことを依頼し、承諾いただいていることが報告された。座長については、特別講演の座長は大迫会長が務め、表彰式・基調講演の座長は藤崎誠理事が担当することが報告された。会員発表の座長については、現在未定となっており、本理事会後に希望者を募る意向であることが提示された。会員発表の演題については、現在 2 演題が提出されているが、5 月 24 日まで引き続き募集を続けることが報告された。表彰について、「第 20 回 九州放射線医療技術学術大会 in 鹿児島大会」の表彰(対象 3 名、フレッシュアズ賞:今村総合病院 福田萌乃様、優秀賞:鹿児島大学病院 元日田調様、学術奨励賞:今村総合病院 馬場隆行様)として、春季学術大会内で表彰式が行われることが報告された。基調講演については、表彰式の後に行い、学術奨励賞を受賞された馬場様から、これまでの活動や今後の構想、若手技師へ伝えたいことを含めて 1 時間程度ご講演いただくことで承諾いただいていることが報告された。

次年度の総会日程について、2027 年 6 月 13 日(日)・20 日(日)を仮予定とし、鹿児島市立病院で行う案が提示された。併せて、日曜日開催の場合、運動会など家庭のイベントと重なって予定しにくいため、他県では平日実施しているところもあることなど説明があったが、土曜日の午後に開催することも提案されたが、土曜日開催については引き続き慎重な検討が必要であることが周知された。次年度の総会については、市立病院の会場の空き状況を確認しながら、9 月の理事会で再度検討する方針で出席理事の同意が得られた。

(2) JART 学術委員について

JART 地域理事会議にて学術に関する活動についての話し合いがあったことが報告された。内容として、告示研修の各地区開催の終了、各種研修会のオンデマンド化、フレッシュアズセミナーの入会促進事業への移行を受けて、事実上、教育委員に依頼する業務は無いと考えているため教育委員を廃止に向けて、2026 年度はそのまま継続するが、2027 年度は廃止する方針であることが報告された。九州地域学術教育委員活動については、学術委員を 2 名体制へ移行することも検討されていたが、2027 年度以降継続するか会長会議にて話し合いを行うことになっているため、方針が決まったら見直しを含

めて改めて報告することが周知された。

(3) PassMarket 終了に伴うイベント申込・チケット販売システムの変更について

PassMarket 終了(6月30日)に伴う7月以降の代替システムへの変更について、現在検討している EventRegist について、Peatix・LivePocket との比較など概要の説明があった。内容として、Peatix は、コンビニ払い時のみ参加者負担があることや、LivePocket は、有料チケット1枚につきシステム利用料165円(税込)が購入者負担となり、事業者負担にすることはできないことなどの説明があった。武宮理事より、7月開催の鹿児島県医療情報システム研究会と鹿児島県医療画像情報精度管理士部会の合同開催では、LivePocket を利用することが報告され、参加者負担の手数料について情報提供もあり、他のサービスと比較してバランスの良い EventRegist を第一候補として変更を進めることで出席理事の同意が得られた。今後について、EventRegist のデメリットとして、登録フォームのカスタムや申込確認メールが有料であるため、入力方法や運用方法を変更する必要があることや、財務管理や各研究会の会費入金の際の重複の可能性が示唆されるため、EventRegist 専用の口座を開設することなど対策が必要であることが周知され、今後検討する意向が周知された。

(4) 各種イベントへの参加について

これまで日本診療放射線技師学術大会、九州放射線医療技術学術大会、FRT 九州に関しては、会長のみもしくは会長と学術委員で参加していたが、今年度から、予算等を考慮して理事から1名追加して参加する方針が提案された。具体的な内容として、今年度の日本診療放射線技師学術大会(山形)は、予算・ホテルの都合で会長1名の参加としたが、九州放射線医療技術学術大会(沖縄)から会長に加えて理事2名が参加する案が提示された。加えて、次年度の参加理事の選定については、次回理事会で決定する意向が示された。

(5) 市民健康まつり担当者の増員について

市民健康まつりの担当者について、これまで担当者は1名としていたが、引継ぎ等を考慮して今年度から2名体制とし、任期は原則2年とすることが周知された。今年度は、脇田理事に加えて東理事に担当してもらうことで承諾いただいた。なお、今年度から骨密度測定は装置1台体制で行うことも併せて周知された。

(6) 鹿児島地域研修会(学術賞)・フレッシューズセミナー・懇親会について

鹿児島地域での学術集会とフレッシューズセミナーを、懇親会を含む終日コースとして7月または8月に開催したいとい

う意向が提示された。方針として、武宮理事・藤崎誠理事を中心に内容・日程・会場を詰めていただきたいとの意向が示され、会場の予約が取れない場合は、相良病院や宝山ホールも検討することが周知された。また、研修会の方向性として、会員以外も参加可能とし、参加者は最大で30~50人程度を想定していることや、30代を中心とした若手会員を懇親会などで引き入れることで、鹿児島県診療放射線技師会の運営に新しいアイデアを取り入れたいという意向が周知された。また、懇親会を含む終日のイベントにメーカーを招待する意向も併せて提示され、メーカー向けの懇親会参加費について、渡邊副会長と木原財務理事と協議を行い、学術大会の懇親会のように参加費に差を設けるなど、費用の徴収方法を検討したいとの説明があった。他県では、新年会を含め、メーカーを交えた懇親会が頻繁に開催されているため、そのような場を設けることは有効であるとし、協賛金を出してくれているメーカーに対して、何らかの優遇策を講じるべきではないかとの提案が挙がった。本件については、引き続き検討を進める方針となった。

(7) ワクチン筋注行為講習会の定期開催について

ワクチン筋注行為講習会について、昨年度は学術大会で1回目の講習会を実施し、2回目は霧島・始良地域研修会にて実施された。今年度は、大島での開催を予定しており、愛下理事と大迫会長で支援することを検討しているとの報告であった。また、今後の展望として、各地域の理事に対し、少なくとも全地域で1回は企画・開催していきたいとの意向が提示され、内容について協議が行われた。質疑として、講習会に要する時間について確認があり、約1時間前後であることが周知された。また、地域研修会は非会員も無料となっているため、講習会は、会員・非会員を問わず参加可能とする方針とし、各地域の開催については、会長や愛下理事、坂口理事に相談しながら、地域毎に企画を検討することで出席理事の同意が得られた。

2, 副会長

特になし

3, 総務

(1) 公文書発行一覧について

公文書発行一覧について、別紙資料を元に説明があり、詳細については議事録を参照するよう周知された。別紙2: 公文書発行記録参照

(2) 物品管理報告

物品管理について、不具合等により使用不能となった備品の廃棄処理について報告があった。廃棄処理の対象は、南薩地域用ノートパソコン(2021年購入)とプロジェクター(2013

年購入)であり、減価償却処理を木原財務理事が担当し、物品管理台帳から抹消することが報告された。なお、総務用ノートパソコンについては、南薩地域用として配備したことが併せて報告された。別紙 3:物品管理台帳参照。

4. 財務

(1)会費免除決定者・減額決定者の報告

会費に関する規程(第 9 条・第 14 条)に基づき、令和 7 年度の会費免除者および減額者の状況について報告があった。年間会費免除者は 12 名(前年度 13 名)、半額減額者は 41 名(前年度 42 名)、有期免除者(主に産休・育休中)は 10 名(前年度 8 名)であった。本件は会費に関する規定に基づく報告事項であり、本理事会において報告がなされた。

(2)令和 7 年度収支決算概要報告

令和 7 年度収支決算について、報告があった。資産の部について、流動資産(現金等)の合計は 110 万 8,129 円となり、前年度より 4 万 6049 円増加し、黒字で会計年度を終えたことが報告された。資産合計については 2,496 万 3124 円であり、減価償却費が含まれるため前年度より 40 万 3,742 円減少している。正味財産増減計算書について、経常収益の合計は 575 万 1,629 円となり、広告収益が 11 社から 13 社に増加したことや、雑収入(イベントの運営助成金、ワクチン筋注運営助成金等)が増加したことを要因として、前年度より 24 万 7,723 円増加した。なお、当初は会員増加に伴い会費収入の増加も見込まれていたが、未納者の影響により会費収入は減少しており、今年度に未納分が納入されれば改善する見込みであることが併せて報告された。経常費用の合計は 617 万 371 円であり、内訳として事業費が 493 万 9,641 円、管理費が 123 万 730 円であった。費用増加の主な要因として、福利厚生費は総会・学術大会での特別功労賞副賞等により 9 万 6,100 円の増加、修繕費は隔年実施の電離箱線量計の校正費用による増加、賃借料は骨密度測定装置 2 台借用による約 14 万円の増加、諸謝金は市民健康まつりのスタッフ増加(前年度 2 名から 15 名へ増員)等で 9 万 8,000 円の増加、支払手数料は鹿児島銀行の振込手数料改定による約 5 万円程度の増加が報告された。一方、広告宣伝費は協賛金縮減により減少、通信運搬費は会報と議決権行使書を別発送に変更したことで約 12 万円の減少となった。なお、会報の印刷費については 7 万 739 円の増加であった。また、2026 年 6 月より鹿児島銀行間の振込手数料が一部無料化されることが大迫会長より報告された。これにより、2025 年度に発生していた同行間振込手数料(165 円)が再び無料となり、年間で 4 万円程度の経費削減が見込まれる。

(3)公益法人維持に必要な財務三要件について

公益法人を維持するために必要な財務三要件(収支相償、遊休財産保有制限、公益目的事業比率)について、令和 7 年度決算における充足状況が報告された。収支相償については、公益目的の収入 348 万 5,509 円に対し、公益目的の支出が 457 万 5,224 円となり、収支差額は▲108 万 9,735 円の赤字となり要件を満たした。遊休財産保有制限については、流動資産 110 万 8,129 円に対し公益目的費用が 457 万 5,224 円となり、差額は▲346 万 7,095 円となり要件を満たした。公益目的事業比率については、公益目的費用 457 万 5,224 円を経常費用合計 617 万 371 円で除して 74.1%となり、50%以上の要件を満たした。以上より、令和 7 年度においては公益認定維持に必要な財務三要件をすべて満たしていることが確認された。

(4)減価償却終了後の財務対策について

坂元事務所建物の減価償却(年額約 40 万円)が約 4 年で終了することに伴い、その後は正味財産期末残高がプラスに転じ、課税対象(均等割に加えて法人税)となる可能性があるとの指摘があった。対策として、減価償却資産(パソコン等)の購入により費用を計上する方法はあるが、そのためには現金(流動資産)の確保が必要となるため、今後 3 年程度で流動資産を増やしておく必要があるとの意見が示された。本件については、岩重会計士と相談しながら、次回打合せにて大迫会長・渡邊副会長・木原財務理事で確認を進める方針が示された。

(5)広告収益増加について

学術大会で協賛を得た企業に改めて広告協力の依頼を行った結果、今年度は 5 社増の計 19 社から協賛を得ており、現時点で 57 万円の収益が確保される予定であることが報告された。なお、今年度はあと 1 社が検討中であり、過去 10 年程度の中では最多の協賛金額となる見込みである。来年度以降についても継続して広告掲載企業を増やす意向であり、現在さらに 2 社程度に打診中であることが併せて報告された。理事各位におかれては、所属施設のメーカー担当者に対し、協賛への協力に対する御礼の言葉を伝えていただきたい旨の依頼があった。

5. 学術

特になし

6. 福利厚生

ホームページ改修について、現在進行中のホームページ改修の進捗報告があった。改修項目は、①新しい会報および過去のバックナンバー掲載ページの新設、②定款・諸規定の

最新版を全て掲載(基本規定／会員に関する規定／表彰関連／部会運営業務に関する規定の4項目に整理)、③研究会案内ページの表示方法変更(開催日順に並び替え、終了したイベントはチェックボックスで切り替えて表示する)、④求人情報掲載ページの新設(年内開始予定)の4項目であり、今月中に会報、規定、研究会の表示ページについて変更が反映される見込みである。会報は会員・非会員問わず閲覧可能とし、今回発送した会報が会員に届くタイミングに併せて掲載予定であることが報告された。本件に関しては、進めながら気付いた事項があれば随時意見を募ることが周知された。

7, 編集・広報

特になし

8, 表彰

特になし

9, 組織

会員動向について、2025 度末の会員数は 624 名であり、

2024 度末(631 名)と比較すると会員数は若干減少しており、新規入会者数は 17 名と例年より少ない状況である。例年であれば 4 月・5 月頃から新卒者の入会申請が増加し始める時期であるが、現時点では新卒者からの入会申請は確認されておらず、入会申請中の方も再入会や中途入会者を中心となっていることが要因として挙げられた。入会促進策として、木場理事が作成した入会案内の広報を LINE 等で実施する予定であることが報告された。また、日本診療放射線技師会(JART)の入会手続きの運用変更に伴い、2027 年 4 月より鹿児島県診療放射線技師会単独での入会を可能とする方針について、2026 年度中に準備を進める意向が示された。これにより、JART と県技師会の両方加入で 2 万円を超える会費負担が県のみ加入で軽減され、入会者数の増加と退会者数の減少につながることを期待されることが周知された。また、2024 年度の退会者は 30 名、2025 年度の退会者は 34 名となっており、退会抑制が課題となっていることが提示された。

議題 2 会員動向報告(第 6 条):組織

会員動向(2026 年 5 月 9 日現在)

年 月	月末会員数	入 会	転 入	転 出	退 会
2025 年度集計	624	31	8	12	34
2026 年 4 月	616	2	3	3	10 (除籍 6)
2026 年 5 月	618	2	0	0	0
2026 年度集計	618	4	3	3	10

議題 3 その他

(1) 今後の予定について

次年度の理事会日程等については、改めて調整の上、案内する旨が周知された。なお、令和 8 年度第 105 回定時総会・春季学術大会が 2026 年 5 月 31 日(日)に開催されるため、各理事は当該総会への参加・準備への協力を依頼された。

(2)各理事より報告・審議

特になし

閉会

議長より全ての議事が終了し、令和 8 年度第 1 回理事会の閉会が宣言された。

令和 8 年 05 月 12 日

公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会

会 長 大迫 俊一

監 事 太田原 美郎

理 事 木原 悠太 ・ 藤崎 誠

議事録作成者

理 事 市来 守

令和7年度 会務報告

別紙1：

記録者：大迫（相良病院）

開催日	内容	開催場所	出席者
2026/3/14	令和7年度 第2回 九州地域放射線技師会理事会および各県会長会議	ナースプラザ福岡	大迫会長
2026/3/23	財務引継ぎ会議	鹿児島市立病院	渡邊副会長・木原理事・屋部理事
2026/3/17	原子力防災時医療ネットワーク検討会	鹿児島県医師会	大迫会長

令和8年度 会務報告

開催日	内容	開催場所	出席者
2026/4/16	財務引継ぎ会議	鹿児島市立病院	木原理事・屋部理事
2026/4/21	岩重会計事務所訪問（令和7年度決算書類）	岩重会計事務所	木原理事
2026/4/22	令和7年度 期末監査	坂元事務所	大迫・恵・渡邊・市来・木原・太田原監事・米山監事
2026/4/22	ホームページ話し合い	WEB	大迫・恵・渡邊・市来・木原・藤崎(誠)・東・米重・木場
2026/5/10	つながる思いinかごしま	かんまちあ	大迫会長・藤崎誠理事
2026/5/11	令和8年度 第1回 常務理事会	WEB	大迫・恵・渡邊・市来・木原・藤崎(誠)・東・米重・木場
2026/5/12	令和8年度 第1回 理事会	WEB	理事23名・監事1名参加

2026年5月12日時点

令和7年度 公文書発行記録一覧

別紙2：

記録者：大迫（相良病院）

番号	発行日時	文書	宛先	備考
25073	2026/3/19	会計期末監査における当日執務の依頼について（お願い）	川内市医師会立市民病院 米山 光明 様	

令和8年度 公文書発行記録一覧

番号	発行日時	文書	宛先	備考
26001	2026/4/11	2026年度広告掲載料請求書	PSP	
26002	2026/4/15	放射線量測定結果について	耳鼻咽喉科田上クリニック 伊東 祐久 院長 様	
26003	2026/4/20	2026年度広告掲載料請求書	東洋メディック株式会社	
26004	2026/4/23	2026年度広告掲載料請求書	エア・ウォーター・リンク 株式会社	

2026年5月12日時点

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 物品管理台帳

別紙 3 :

記録者：大迫（相良病院）

番号	購入年月日	品 名	管理施設(担当者)	備 考	確 認 日
09-001	2009/4/1	坂元事務所会議室用テレビモニター	坂元事務所	坂元事務所 2階	2026/4/1
09-002	2009/4/1	レーザープリンター	坂元事務所	坂元事務所 1 階物置	2026/4/1
10-001	2010/4/1	電離箱サーベイメータ	米重理事	鹿児島市立病院 放射線治療室 デシケーターに保管	2026/4/3
19-001	2019/8/1	WEB配信用ノートパソコン	大迫会長	さがらパース通りクリニック 放射線治療管理室	2026/4/1
19-002	2019/8/1	WEBセミナー音響備品	大迫会長	さがらパース通りクリニック 放射線治療管理室	2026/4/1
21-001	2021/3/1	総務用ノートパソコン → 南薩地域用ノートパソコン	市来総務理事 → 木佐貫理事へ	今村総合病院 → 加世田病院	2026/4/1
21-002	2021/3/1	財務用ノートパソコン	木原財務理事	鹿児島市立病院 放射線技術科	2026/4/3
21-003	2021/3/1	学術用ノートパソコン	藤崎学術理事	南風病院	2026/4/1
21-004	2021/3/1	組織用ノートパソコン	木場理事	鹿児島市医師会病院 放射線室	2026/4/3
21-005	2021/3/1	鹿児島地域用ノートパソコン (配信用)	大迫会長	さがらパース通りクリニック 放射線治療管理室	2026/4/1
21-006	2021/3/1	北薩地域用ノートパソコン	藤崎拓郎理事	川内市医師会立市民病院 医療技術部放射線課	2026/4/3
21-008	2021/3/1	霧島始良地域用ノートパソコン	坂口理事	霧島市立医師会医療センター 放射線科	2026/4/3
21-009	2021/3/1	大隅地域用ノートパソコン	熊谷理事	昭南病院 画像診断検査センター科	2026/4/3
21-010	2021/3/1	大島地域用ノートパソコン	元理事	大島病院 中央放射線部技師室	2026/4/3
21-011	2021/9/1	坂元事務所会議室用エアコン	坂元事務所	坂元事務所 2階	2026/4/1
22-001	2022/12/1	WEB配信用デスクトップパソコン (坂元事務所)	坂元事務所	坂元事務所 2階	2026/4/1
23-001	2023/11/25	ベリンガー アナログミキサー	大迫会長	さがらパース通りクリニック 放射線治療管理室	2026/4/1
24-001	2024/7/30	スイッチャー_ATEM Mini Pro	大迫会長	さがらパース通りクリニック 放射線治療管理室	2026/4/1
13-001	2013/3/1	プロジェクター	坂元事務所 1 階物置	故障のため廃棄	2026/4/1
21-007	2021/3/1	南薩地域用ノートパソコン	--	故障のため廃棄	2026/4/3

2026年5月12日時点

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 令和 8 年度第 2 回 常務理事会 議事録(抄)

日時 令和 8 年 8 月 21 日 19 時 00 分 ～ 20 時 49 分

場所 Web 開催(Google Meet)

出席理事：(Web 会議システムを通じての出席)

大迫 俊一・渡邊 義治・恵 智徳・木原 悠太・
藤崎 誠・東 幸浩・米重 亮馬・木場 淳

欠席理事：市来 守

議長：会長 大迫 俊一

開会：議長により令和 8 年度第 2 回常務理事会の開催が宣言された。

第1号議案

各常務理事より次回理事会議案について協議事項がないか確認を行った。

1, 会長

(1)Google フォーム及び Square リンク決済を利用した研究会参加登録について

PassMarket のサービス終了に伴い、研究会等の参加登録について、Google フォームと Square リンク決済を組み合わせた運用方法の説明があった。申込情報は Google フォームに集約し、無料区分はフォーム送信時点で登録完了、有料区分はフォーム送信を「仮登録」とし、Square による決済確認後に「正式登録」とすることが報告された。

Google Apps Script (GAS)を活用し、参加定員の管理、申込状況の表示及び参加区分に応じた自動返信メールの送信を行う仕組みが構築されたことが説明された。各研究会では、共通の原本フォームをコピーして使用し、研究会名、開催日時、会場、参加費、定員及び Square 決済リンク等を修正することとされた。また、公開前には無料区分、有料区分及び定員到達時のテスト申込みを行うことが周知された。

一方、Google フォームと Square は別のシステムであるため、フォーム回答と決済情報の照合が必要であること、有料区分では未決済の仮登録が発生する可能性があること、自動返信メールが迷惑メールに分類される場合やメールアドレスの入力誤りにより届かない場合があることが懸念点として示された。このため、申込者には、決済時に Google フォームと同一の氏名及びメールアドレスを使用することや、迷惑メールフォルダを確認することなどを案内し、各研究会と事務局が連携して運用する方針が示された。

また、WEB 参加用 URL の配布については、現状では Bcc を利用した一斉メールでの送付を予定しているが、メールが届かない場合に備え、申込完了画面及び自動返信メールに注意事項を記載し、迷惑メールフォルダの確認等を案内すること

となった。

ハイブリッド開催時の現地支払分については、現金の管理及び事務局への受渡しを簡素化するため、今後は現金徴収を行わず、Square の決済リンクを利用して精算する方針とした。既に発生している MRI 研究会や放射線治療研究会の現地支払分についても、専用の決済リンクを作成して処理することとなった。

また、研究会等の参加費収入が増加していることから、当該収入が税務上の収益事業又は会計上の事業収益に該当する可能性について意見があった。課税関係、収益事業と雑収入の区分及び帳簿処理に影響する可能性があるため、収入規模の基準等について顧問税理士に確認することとなった。

(2)鹿児島血管撮影技術研究会加入に関して

鹿児島血管撮影技術研究会より、鹿児島県診療放射線技師会傘下の研究会として加入するために必要な結成申請書及び会則の提出があったことが報告された。申請書では、血管造影検査及び治療(IVR)における撮影技術、放射線防護・計測等に関する知識の研鑽を通じて、県内の血管撮影技術の向上・均てん化、多職種連携及びチーム医療の質向上を図ることを目的としていることが示されている。

提出された会則では、原則として年 1 回の定期研究会を開催し、開催時には鹿児島県診療放射線技師会の承認を得ること、研究会終了後には活動報告書を提出すること、参加費については鹿児島県診療放射線技師会の規定に従うことなどが定められていることが確認された。

以上の提出資料及び活動実績について常務理事から意見を聴取し、特段の問題がなければ、鹿児島血管撮影技術研究会の加入について次回理事会に諮る方針が示された。

(3)次年度の役員体制について

次年度の役員体制について意向確認を行った結果、13 名が継続又は再任を希望し、5 名が退任を予定していることが報告された。退任予定者のうち 2 名は地域枠であり、残る 3 名については後任者の選定を進めている。また、5 名は未定であったことが報告された。

(4)県のみ会員制度等について

組織率向上策として、鹿児島県診療放射線技師会のみにも所属する「県のみ会員」制度について、入会窓口、会費及び会員管理の 3 点から検討を進める方針が示された。次回理事会で協議した後、年末の理事会で継続検討し、令和 9 年 4 月からの運用開始を目標とする。

入会窓口については、JART にも加入する者の手続きを JARTIS からの申請一斉化し、県のみ会員については県技師会が別途受け付ける方法を検討する。県のみ会員の申込方法は、申込書 PDF の提出又は入力フォームの利用を候補とし、他県の事例を参考にホームページの改定を進めることと

なった。

会費の決済方法については、Square を利用したクレジットカード決済と銀行振込の 2 方式を準備する方向で検討する。Square のアカウント内に研究会用と会員管理用の店舗を設けることにより入金先を分け、クレジットカード決済では毎年の自動引落しを可能とする案が示された。

現行会費は県会費 7,000 円と九州地域会費 500 円を区分しているが、県のみ会員は九州地域会費の対象外となる可能性があることから、会費を 7,500 円に一本化する案と、500 円を別途管理する案について協議した。従来の帳簿処理との整合性、預り金としての取扱い及び県技師会での活用方法について顧問税理士に確認し、その結果を踏まえて会費徴収規定の改定を検討することとなった。

県のみ会員の管理については、既存の会員番号と識別できる番号の先頭にアルファベットを付し、県技師会の会員管理システムに登録する案が示された。研究会等では県のみ会員を会員として取り扱い、将来的に JART への加入につなげる方針が示された。

【報告事項】

令和 8 年度 JART 理事会議事録より報告

(1) 第 45 回日本診療放射線技師学術大会について

第 45 回日本診療放射線技師学術大会について、令和 11 年(2029 年)9 月 15 日(土)から 16 日(日)まで、高松市文化芸術ホール(サンポートホール高松)において開催される予定であることが報告された。

(2) 放射線検査説明に関するガイドラインについて

患者中心の視点を重視するとともに、医療安全の強化、医療法及び医療法施行規則の改正への対応、医療技術の高度化・検査の多様化を反映した改定案が承認されたことが報告された。改定案では、従来の構成を見直し、単純 X 線検査、マンモグラフィ、CT、透視検査・血管造影、MRI、核医学及び放射線治療の 7 領域に再編された。今後、広報委員会等と連携し、会員への周知を進める方針であると報告された。

(3) JART Vision 2040 について

診療放射線技師職の継続と発展に向けた「JART Vision 2040」について報告があった。長期目標として掲げる「国民から求められる新たな役割の獲得」に向け、病院外における業務や放射線業務以外への職域拡大について、必要な法改正を含めた検討を進める方針であることが報告された。

中期目標として、組織率 70%の達成を目指し、入会促進及び退会抑制に取り組むとともに、医療関係団体や診療放射線技師養成機関との連携強化、管理者の育成、ラダー制度の周知・活用を推進することが報告された。また、若手役員の登用、事務局体制の見直し、会員情報システム及び事務手続きの DX 化を進め、組織運営の強化を図る方針が示された。さらに、

2025 年度の赤字決算を踏まえ、財務体制の安定化にも取り組むことが報告された。

(4) JART 会費値下げの可能性について

本年度の入会者数及び財務状況を踏まえ、会費を値下げする場合には、1,000 円程度の引下げを選択肢として検討していることが報告された。ただし、2025 年度決算の状況を鑑みると、現時点では次回総会に会費値下げを提案できる状況にはなく、引き続き財務状況を見ながら検討を継続する方針であることが報告された。

JART 未収会費回収費用に伴う費用の変更に伴うお伺いについて

日本診療放射線技師会(JART)より、未収会費の債権回収に係る費用変更について承諾依頼があったことが報告された。JART では、2025 年 10 月に債権回収委託先を NTS 総合弁護士法人へ変更し、回収対象を「会員資格喪失(除籍)者」に加えて「年会費未納による退会者」まで拡大している。2026 年度からは、回収成功報酬が回収金額の 30%から 35%へ変更されるとともに、新たに請求 1 件あたり 500 円(税別)の請求手数料が発生し、このうち都道府県年会費分については都道府県技師会の負担となることが説明された。

鹿児島県におけるこれまでの状況として、2022 年度には債権回収の実績はなく、2023 年度及び 2024 年度も会費未納のまま退会した者に対する債権回収は行っていなかったが、2025 年度は対象者 15 名 30 件のうち、5 名 10 件分の回収実績があったことが報告された。今回の費用変更を昨年度実績に当てはめて試算した場合、請求手数料 15,000 円に対し、成功報酬控除後の回収金額は 48,750 円となり、県技師会への振込額は 33,750 円となる。一方、回収状況によっては請求手数料分として 15,000 円程度の赤字が生じる可能性もあることが説明された。

以上を踏まえて協議した結果、鹿児島県診療放射線技師会としては、引き続き都道府県未収会費の債権回収を継続する方針とし、その旨を JART へ回答済みであることが報告された。なお、都道府県分の債権回収を取りやめた場合でも、JART 未収会費については JART 分のみで債権回収が継続されることも併せて周知された。

原子力災害医療 4 県合同意見交換会について

(1) 福岡県診療放射線技師会より:福岡県との包括的協力協定の締結に向けた準備について

福岡県診療放射線技師会より、福岡県との有事における包括的協力協定について、他県の事例を参考にした協定書のドラフトを作成し、県に提示する方針が提案された。今後は当該案を基に内容の精査・調整を行い、協定締結につなげたい意向が示された。協定締結後は、その内容を原子力防災訓練にも反映させることが可能になる旨の考えが示された。

福岡県より、包括的協力協定が進展していない背景について説明があり、県としては原子力災害対応における課題や協定締結による効果を十分に整理・提示できていないことから、慎重な姿勢が続いていることが共有された。一方で、協定案については、今後は関係者間での情報交換や意見調整を進めながら、段階的に協議を進めていく方針が示された。

(2)長崎県より:放射線技師会との協定について、放射線技師の保険加入について

長崎県より、放射線技師派遣に関する協定締結に向け、補償の考え方について検討状況が共有された。現行の保険は災害医療派遣チームに限定されるため、県としては災害救助法に基づく補助金による補償を軸とする方向で検討している旨の説明がなされた。

他県における補償対応の状況について、佐賀県より、放射線技師の保険加入は現状実施していない旨の説明がなされた。長崎大学より、原子力規制庁主催の高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センター事務局長会議について、年6回開催予定であり、第1回は既に終了した旨の報告があった。今後は内閣府(原子力防災担当)も参加予定であり、県別意見交換会で挙げた課題を共有する旨の説明がなされた。また、同会議で保険等に関する情報(原子力災害特有の障害を含む)が示された場合には、県別意見交換会等で共有する旨の説明がなされた。

原子力災害医療 令和8年度県別意見交換会

原子力災害医療基礎研修及び原子力防災訓練について

鹿児島県における原子力災害医療基礎研修について、現時点では今年度の日程は決定しておらず、例年と同様の時期に開催される予定であることが報告された。研修日程については、原子力災害医療研修管理システム(REMS)等で今後案内される予定である。また、受講機会の確保の観点から、今後は鹿児島県においても通年で受講できる体制について検討してもらいたいとの意見が示された。

原子力防災訓練についても、今年度の日程及び会場は現時点では未定であるが、開催時期及び内容は例年と同様となる見込みであることが報告された。昨年度の訓練後アンケートにおいて、車両検査から避難退域時検査に至る連携に不備があったとの指摘があったことから、今年度は秋頃に事前訓練を実施する予定であることが説明された。事前訓練は主に保健所職員を対象として検討されているが、必要に応じて鹿児島県診療放射線技師会へ協力依頼を行う可能性があることも併せて報告された。

その他、原子力災害拠点病院である鹿児島大学病院及び済生会川内病院に対し、BCP(事業継続計画)の作成依頼があることが報告された。また、関連する研修等を日本救急医学会の専門医更新に係る単位として認められるよう、認定機構

へ申請・調整を進めていることが報告された。

令和8年熊本地震におけるJARTの対応状況について

令和8年熊本地震における日本診療放射線技師会(JART)の対応状況について経過報告があった。発災後、JARTでは熊本県診療放射線技師会、西小野理事及び関係者と連携し、会員・医療機関の被害状況や支援ニーズ等の情報収集を実施した。その後、JART本部より江端業務執行理事が熊本県入りし、熊本県庁の関係部署や保健医療福祉調整本部等との情報共有・調整、現地医療機関の状況確認を行ったことが報告された。

その中で、八代北部地域医療センターにおいて診療放射線技師による撮影業務支援が必要となり、厚生労働省医政局とも調整のうえ、JARTとして診療放射線技師を派遣したことが報告された。派遣者は、JARTISに登録されている災害支援認定診療放射線技師及び災害時派遣候補者等をもとに調整され、熊本県内の会員5名がJARTの支援技師として登録された。支援期間は8月14日夕方から8月17日朝までで、現地での撮影業務支援に従事した。

8月17日朝をもって予定していた支援活動は、大きなトラブル等もなく終了したことが報告された。

市民健康まつり実行・運営委員会について

令和8年5月28日に鹿児島市医師会館で開催された第1回市民健康まつり実行・運営委員会について報告があった。第43回市民健康まつりについて、昨年度と同規模で開催した場合、支出額が約610万円となり、約150万円の不足が見込まれることから、規模縮小や会場変更、講演会を中心とした簡易開催等について協議が行われた。

協議の結果、開催場所は予定通りフレッシュ青果スポーツランド屋内運動場とし、開催内容についても原則として昨年度と同程度を予定することとなった。一方、財源確保及び経費削減策として、企業等からの協賛金募集、設営の簡素化による設営費の削減、スタッフ用弁当・飲料の内容見直し、主催団体の負担金増額等について検討を進めることが報告された。なお、最終的な予算状況によっては開催内容を変更する可能性があることも併せて周知された。

また、前年度の前期繰越金が約240万円であったのに対し、今年度は約63万円となっており、今年度の開催により繰越金がほぼなくなる見込みであることが報告された。

第44回市民健康まつりについては、2026年7月から西原商会アリーナの一部改修工事が予定され、2028年秋まで使用できないことから、次回開催会場の候補として県民交流センターを加え、施設利用の抽選に参加する方針が示された。なお、県民交流センターは今年度会場より施設使用料が高くなる見込みであることも報告された。

- 2, 恵副会長 : 特になし
- 3, 総務理事 : 特になし
- 4, 財務理事 : 特になし
- 5, 学術理事 : 特になし
- 6, 福利厚生理事 : 特になし
- 7, 編集・広報

会報の進捗について

会報は9月下旬の発行を予定しており、学術関連の原稿並びに総会及び理事会の議事録等を掲載する予定であることが報告された。

配布は原則として電子媒体とし、紙媒体を希望した約100名には郵送することとした。広告協賛企業には郵送せず、メールでホームページ上の会報を案内することにより、郵送費の削減を図る方針が示された。

電子会報の送付対象者は8月31日までの希望申出を反映し、その後、事務局が会員データから送付用名簿を作成して編集・広報担当へ提供することとなった。新会員管理システムでは抽出項目の設定が必要となるため、事務局でリスト作成を進める。

- 8, 表彰理事(渡邊副会長) : 特になし

- 9, 組織理事 : 特になし

第2号議案 その他

(1)第2回理事会について

令和8年8月24日開催予定の第2回理事会には、Google フォーム及び Square による参加登録・決済方法への変更、鹿児島血管撮影技術研究会の加入、会報の電子化、次年度役員体制、県のみ会員制度、入会手続及び会費決済方法等を協議又は承認事項として付議することとなった。報告事項は本常務理事会議事録の回覧により共有し、追加議案がある場合は理事会前にメールで連絡することとした。

(2)鹿児島市民健康まつりについて

骨密度測定機器の手配状況について

骨密度測定機器の配備台数及び手配状況について、担当者との認識に齟齬がある可能性が示された。前回の協議では1台で確定した認識であることから、担当部署へ早急に確認し、必要な手配を進めることとなった。

当日スタッフについて

当日スタッフの募集は今年度もLINEを活用して行うこととなった。また、次年度の夜間休日急病センターのスタッフについても、現行の方法を基本として募集を継続し、次回理事会で確認することとした。

閉会

議長より全ての議事が終了し、令和8年度第2回常務理事会の閉会が宣言された。

令和8年 08月 21日

会 長 大迫 俊一

理 事 東 幸浩 ・ 米重 亮馬

議事録作成者 理 事 恵 智徳

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 令和 8 年度第 2 回 理事会 議事録(抄)

日時 令和 8 年 8 月 24 日 19 時 00 分 ～ 21 時 10 分
場所 Web 開催(Google Meet)

出席理事：(Web 会議システムを通じての出席)

大迫 俊一・渡邊 義治・恵 智徳・木原 悠太
藤崎 誠・東 幸浩・熊谷 繁夫・木場 淳
脇田 慎一・四本 斉・吉田 紫織・愛下 剛
本村 克朗・元 俊晶・戸川 憲二・武宮 太
屋部 太輔・木佐貫 克朗・藤崎 拓郎・坂口 右己
竹尾 晃一

欠席理事：市来 守・藤村 卓也・米重 亮馬

出席監事：太田原 美郎

議長：会長 大迫 俊一

開会:議長により令和 8 年度第 2 回理事会の開催が宣言された。

第1号議案 会長・副会長・各常務理事による活動報告

会務について大迫会長から説明があった。

1, 会長

(1)Google フォーム及び Square リンク決済を利用した研究会参加登録について

PassMarket のサービス終了に伴う代替手段として、Google フォームによる参加登録と Square リンク決済を組み合わせた運用について説明があった。従前検討したサービスは決済手数料が高く、入力項目の自由度にも課題があったため、決済手数料 3.6%の Square を採用した。

Google フォームでは氏名、所属、職種、会員区分・会員番号、参加方法等を取得し、無料登録者には登録完了、有料登録者には決済リンクを自動送信する。メールの未着や誤入力を想定した注意表示等も設け、既に研究会で試行していることが報告された。

審議の結果、今後も本方式を継続し、運用上の課題は随時改善することについて、出席理事全員の同意により承認された。

(2)鹿児島血管撮影技術研究会加入に関して

鹿児島血管撮影技術研究会から当会研究会への加入申請があり、規約、過去の活動実績及び今後の開催方針について説明があった。今後は他の研究会と同様に、事業計画、プログラム及び参加登録手続きを整備する。

講演のアーカイブ公開については、演者の許諾及び著作権上の問題の有無を事前に確認し、事業計画の段階で公開予定を明示した上で個別に判断することが確認された。審議の結果、同研究会の加入は出席理事全員の同意により承認され、本村理事が申請者へ結果を連絡することとなった。

(3)県のみ会員制度等について

令和 9 年 4 月の運用開始を目標とする県のみ会員制度について、対象者が JART の会員サービスを利用できないことや、九州地域の事業では非会員扱いとなることを明確にした上で、入会金、会費の徴収方法、会員番号及び会員管理方法を整

理する必要があるとの説明があった。

会費の徴収は口座振込又は Square による継続決済等を検討し、現行の会費規程における県会費及び地域会費の表記についても、顧問公認会計士へ相談の上で見直す。次回理事会までに制度案を整理し、まず令和 8 年 12 月の理事会で審議した上で、遅くとも令和 9 年 2 月の理事会までに承認を得る方針が示された。

【報告事項】

(1)次年度の役員体制について

次年度の役員体制に関する意向確認の結果、継続 13 名、退任希望 5 名、未定 6 名であったことが報告された。後任候補者への依頼等を進める必要があるため、10 月に「継続」又は「退任」の二択で再度意向確認を行い、12 月の理事会で次年度体制を報告する方針が示された。

2, 恵副会長：特になし

3, 総務理事

公文書発行一覧について

公文書発行一覧について、大迫会長から別紙資料を基に説明があり、詳細は公文書発行記録を参照するよう周知された。

4, 財務理事：特になし

5, 学術理事

(1)地域・部会・研究会を対象とした意見交換会について

研究会参加費は原則無料としつつ、県外者・非会員等が必要に応じて 500 円を徴収する考え方が示された。研究会から依頼したメーカー講師及び同行する担当者 1 名については、参加費を徴収しないことが確認された。

地域・部会に加え、研究会の幹事会出席者についても、1 研究会につき月 1 回を上限として交通費を支給することとなった。支出根拠として、出席者及び協議内容を記載した議事録の提出を求める。

研究会情報の周知には「ラジくる」を活用し、開催報告と併せて会員専用アーカイブを案内して入会促進につなげる。10 月 3 日のフレッシュャーズセミナーは入会促進を主眼とし、新卒者の情報交換会参加費の補助及び運営スタッフの募集を進めることが報告された。

研究会等開催報告

第 64 回鹿児島 CT 研究会は令和 8 年 5 月 28 日に Web で開催され、77 名が参加した。メーカーによる情報提供 5 演題が行われた。

令和 8 年度特別講演・春季学術大会は 5 月 31 日にハイブリッドで開催され、65 名が参加した。会員発表 3 演題のほか、特別講演及び基調講演が行われた。

第 81 回鹿児島消化器画像研究会・第 30 回超音波研究会合同研究会は 6 月 24 日に Web で開催され、48 名が参加した。教育経験談、ミニレクチャー及び症例報告が行われた。

第 27 回鹿児島県放射線治療技術研究会は 7 月 4 日に今村総合病院で開催され、58 名が参加した。施設見学、講演、情報提供及び教育講演が行われた。

第 24 回鹿児島県医療情報システム研究会・鹿児島県医療画像情報精度管理士部会合同研究会は 7 月 18 日にハイブリッドで開催され、医療 DX、病棟連絡業務の効率化及び「ラジ

くる」の運営に関する講演が行われた。

第 32 回鹿児島 MRI 研究会は 7 月 25 日にハイブリッドで開催され、82 名が参加した。メーカー講演 6 演題及び施設発表 5 演題が行われた。

各研究会から出た意見と対応について

講師謝礼は原則として振込で対応する。非会員・メーカーの参加費は Google フォーム及び Square リンク決済を活用し、当日も同決済で対応する。現金のみの参加者については、受付にて現金を受け取り、責任者が後日銀行振込または、Square リンク決済で対応することとなった。

無料登録者及び有料登録者への参加 URL の案内については、登録区分に応じた自動返信を導入しており、運用上の課題を確認しながら改善を継続する。

6, 福利厚生理事

ホームページ更新について

ホームページの更新作業が進んでいない旨の報告があり、次回理事会までに、求人情報及び入会案内等の優先度が高いページから更新を進めることとなった。

7, 編集・広報

会報の電子化及び第 146 号について

会報は第 146 号から電子版を原則とし、発行時に LINE 及びホームページで案内する。紙媒体の送付希望者は 33 名であり、事務局保存分等を含め約 50 部を印刷する。広告協賛企業等への郵送は行わず、電子メール及びホームページで周知する。

電子化により、1 号当たり約 35 万円、年度内に発行する 2 号で約 70 万円の経費削減が見込まれる。紙媒体希望者の名簿はホームページで受け付け、福利厚生担当及び広報担当が連携して最新情報を管理することとなった。

第 146 号は 9 月末の発行を予定し、8 月 30 日から 9 月 5 日まで各理事が原稿を確認する。9 月 7 日に印刷会社へ入稿し、三役による最終確認を経て 9 月 11 日に印刷・発送を依頼する。9 月 25 日に発送し、9 月 30 日頃までに会員へ届ける予定で進めることが報告された。

8, 表彰理事(渡邊副会長)

表彰委員会について

会長・副会長に限らず、長年にわたり会務、研究会活動又は教育活動に貢献した会員を幅広く候補とする方針が示された。また、学術・教育分野の功労を対象とする表彰について、名称及び選考基準を整理することとなった。

令和 9 年度厚生労働大臣表彰の候補者について方針が示され、本人の意向確認後に必要書類を準備することとなった。受賞後は、1～2 年を目安に叙勲候補としての推薦も検討することが確認された。

第 2 号議案 会員動向報告

9, 組織理事

会員動向について

令和 8 年 8 月 20 日現在の会員数は 627 名であり、令和 8 年度累計は入会 15 名、転入 4 名、転出 4 名、退会 12 名であることが報告された。なお、入会手続中 3 件及び転出申請 1 件がある。

【報告事項】

(1) 入会申請に関する不具合について

JARTIS3 は 7 月 28 日から運用開始となったが、旧システムで申請中の入会申請 3 件が新システムへ正常に移行されず、手続が停滞した。JART 事務局を通じてシステム会社へ対応を依頼し、8 月 6 日に情報移行を確認したものの、申請処理及び払込票発送の不具合は継続しており、引き続き復旧を待つ状況である。

(2) 各種申請の通知先について

各種申請の通知が組織担当理事へ届いていないため、JART 事務局へ問い合わせを行っている。また、通知先として設定できる担当者が 1 名のみであることから、2 名設定の可否を照会し、1 名に限定される場合は会員管理担当を通知先として、必要な通知を担当者間で転送する運用を検討することとなった。

(3) 転出申請に伴う勤務先施設情報登録について

転出申請に伴い、他都道府県に所在する勤務先施設の登録申請が当県へ届く事例があった。当県では内容確認が困難であるため、全国的な運用として整理するよう JART 事務局へ要望し、今回の事例は転出申請完了後に改めて勤務先施設情報登録を申請してもらうこととした。

(4) JARTIS3 の再登録について

JARTIS3 への移行に伴い、会員は新しいシステムで再登録する必要があることから、各施設において会員へ周知するよう依頼があった。

第 3 号議案 その他

(1) 今後の予定について

次回理事会は令和 8 年 12 月 19 日(土)を仮日程とし、対面開催で調整する。開催方法及び会場等は、出欠確認後に改めて連絡することとなった。

CT 研究会は令和 9 年 1 月の開催を軸に調整し、ボウリング大会は令和 8 年 12 月 26 日(土)を予定する。各事業の最終日程は、関係者間の調整後に周知する。

(2) 鹿児島市市民健康まつり実行委員募集について

今年度は骨密度測定装置 1 台で運用するため、実行委員を 12 名程度とし、LINE 及びホームページで会員から募集する。必要人数に満たない場合は理事へ協力を求め、8 月 27 日の実行委員会後に募集を進めることとなった。

(3) 日本診療放射線技師連盟青年部について

日本診療放射線技師連盟に青年部が設置されたことについて説明があった。対象はおおむね 40 歳前後まで、連盟会費は年額 2,000 円であり、関心のある会員へ参加を呼びかけることとなった。

閉会

議長より全ての議事が終了し、令和 8 年度 第 2 回 理事会の閉会が宣言された。

令和 8 年 08 月 24 日

会 長 大迫 俊一

監 事 太田原 美郎

理 事 木原 悠太・藤崎 誠

議事録作成者 理 事 恵 智徳

議題2 会員動向報告（第6条）：組織理事
・会員動向（2026年8月20日時点）

年 月	月末会員数	入 会	転 入	転 出	退 会
2025年度集計	624	31	8	12	34
2026年 4月	616	2	3	3	10(除籍6)
2026年 5月	622	6	1	0	1
2026年 6月	623	2	0	1	0
2026年 7月	626	4	0	0	1
2026年 8月	627	1	0	0	0
2026年度集計	627	15	4	4	12

※入会手続き中3件、転出申請 1 件

令和8年度 会務報告

別紙1：

記録者：大迫（相良病院）

開 催 日	内 容	開 催 場 所	出 席 者
2026/5/31	第105回 鹿児島県診療放射線技師会 定時総会	鹿児島市立病院	理事24名。監事1名
2026/6/11	霧島・始良地域世話人会	Web開催	坂口地域理事・世話人6名
2026/6/13	第89回 日本診療放射線技師会 定時総会	Web開催	大迫会長、恵副会長
2026/6/22	医療画像情報精度管理士部会 世話人会	Web開催	武宮理事・世話人5名
2026/7/4	第11回FRT九州研修会	福岡県	大迫会長
2026/7/11	令和8年度 学校関係者評価委員会	鹿児島医療技術 専門学校	大迫会長
2026/7/14	原子力災害医療 令和8年度県別意見交換会 鹿児島県	Web開催	大迫会長
2026/7/14	第1回JARTIS3運用方法レクチャー	Web開催	大迫、木場、
2026/7/18	都道府県(診療)放射線技師会 地域委員会 (全国地区連絡協議会)	Web開催	大迫会長
2026/7/27	地域、部会、研修会を対象とした意見交換会	Web開催	理事名・各表者名
2026/7/30	南薩地域世話人会	Web開催	木佐貫地域理事・世話人8名
2026/8/7	第2回JARTIS3運用方法レクチャー	Web開催	大迫、木場、
2026/8/21	令和8年度 第2回 常務理事会	Web開催	常務理事
2026/8/21	表彰委員会	相良病院	大迫会長・渡邊理事・委員4名
2026/8/24	令和8年度 第2回 理事会	Web開催	理事21名・監事1名参加

2026年8月24日時点

令和8年度 公文書発行記録一覧

別紙2：

記録者：大迫（相良病院）

番号	発行日時	文書	宛先	備考
26005	2026/7/6	(公社)鹿児島県診療放射線技師会 鹿児島MRI研究会での 講師派遣のご依頼について (お願い)	鹿児島医療センター 診療放射線技師長 大浦 弘樹 様	第32回鹿児島MRI研究会
26006	2026/7/6	(公社)鹿児島県診療放射線技師会 鹿児島MRI研究会での ご発表について (ご依頼)	鹿児島医療センター 竹尾 晃一 様	第32回鹿児島MRI研究会
26007	2026/7/6	(公社)鹿児島県診療放射線技師会 鹿児島MRI研究会での 講師派遣のご依頼について (お願い)	鹿児島市立病院 放射線技術科 科長 隈 浩司 様	第32回鹿児島MRI研究会
26008	2026/7/6	(公社)鹿児島県診療放射線技師会 鹿児島MRI研究会での ご発表について (ご依頼)	鹿児島市立病院 安永 勇太 様	第32回鹿児島MRI研究会
26009	2026/8/2	放射線量測定結果について	ふくい耳鼻咽喉科クリニック 福岩 達哉 院長 様	
26010	2026/8/18	第48回南薩地域研修会における講師派遣のお願いについて	南さつま市消防本部 南さつま消防署 署長 海田 高寛 様	第48回南薩地域研修会 (さくらRT合同研修会)

2026年8月24日時点

公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会 行事・活動予定

2026 年

4 月	22 日(水)	期末監査	坂元事務所
	22 日(水)	ホームページ話し合い	WEB
5 月	10 日(日)	つながる想い in かごしま	かんまちあ
	11 日(月)	令和 8 年度 第 1 回 常務理事会	WEB
	12 日(火)	令和 8 年度 第 1 回 理事会	WEB
	28 日(木)	第 64 回鹿児島 CT 研究会	WEB
	31 日(日)	第 105 回 定時総会及び春季学術大会	鹿児島市立病院・Hybrid
6 月	24 日(水)	第 81 回鹿児島消化器画像研究会・ 第 30 回鹿児島超音波研究会 合同開催	WEB
7 月	4 日(土)	第 27 回鹿児島県放射線治療技術研究会	今村総合病院
	4 日(土)	第 11 回 F R T 九州研修会	福岡県(パピヨン 24)
	18 日(土)	第 24 回鹿児島県医療情報システム研究会 & 鹿児島県医療画像情報精度管理士部会 (合同開催)	鹿児島市立病院・Hybrid
	25 日(土)	第 32 回鹿児島 MRI 研究会	鹿児島市立病院・Hybrid
	27 日(月)	地域、部会、研修会を対象とした意見交換会	WEB
8 月	21 日(金)	令和 8 年度第 2 回常務理事会	WEB
	23 日(日)	表彰委員会	相良病院
	24 日(月)	令和 8 年度 第 2 回理事会	WEB
9 月	3 日(木)	令和 8 年度 第 1 回 鹿児島市夜間急病センター勤務者研修会	鹿児島市 精神保健福祉 交流センターはーとばーく
	5 日(土)	鹿児島県乳房画像研究会	WEB
	26 日(土)	第 48 回南薩地域&さくら RT 合同研修会 ワクチン筋注行為講習会	鹿児島県立薩南病院
10 月	3 日(土)	フレッシューズセミナー	宝山ホール
	3 日(土)	鹿児島地域研修会	宝山ホール
	18 日(日)	第 43 回 市民健康まつり	鹿児島ふれあいスポーツランド
	31 日(土)	第 53 回大隅地域研修会・ 鹿児島県診療放射線技師会秋季学術大会 ワクチン筋注行為講習会	介護老人保健施設 ヴィラかのや

漏洩線量測定事業のご案内

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会では、放射線を取扱う専門職として資格を有する団体の一般社会への利益還元事業と公益事業の一環として、放射線安全管理の啓発を兼ねた環境測定事業を実施しています。基本的には、該当施設会員と放射線管理士部会からの派遣技師と 2 名で実施する予定です。法令で規定してある測定は X 線検査室の周囲だけではなく敷地内病室、居住区域、敷地境界も測定しなければなりません。その測定方法及び測定値の取扱いについての説明も致します。また、測定事業に併せて施設の放射線管理のアドバイスも行っております。些細な事でもご相談ください。

料金は、会員がいる施設が、基本料金 2 万円+測定料金 1 方向 5 千円、会員がいない施設は基本料金 4 万円、ただし、歯科医院等の場合は、基本料金は 2 万円となっています。

ご希望の施設がございましたら、見積等をご提示しますので下記電話メールにてご照会下さい。

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 射線管理士部会 担当 藤崎
☎0996-23-4418 (川内市医師会立市民病院放射線課) krt2@kagoshima-rt.jp

公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会役員名簿

事務所住所 〒892-0861 鹿児島県鹿児島市東坂元4丁目28-11

2025-2026 年度

役職名		氏名	所属
会 長		大迫 俊一	相良病院
副会長		渡邊 義治	清泉クリニック整形外科内科
		恵 智徳	今村総合病院
常務理事	総務	市来 守	今村総合病院
	財務	木原 悠太	鹿児島市立病院
	学術	藤崎 誠	南風病院
	福利厚生	東 幸浩	鹿児島医療技術専門学校
	広報	米重 亮馬	鹿児島市立病院
	組織	木場 淳	鹿児島市医師会病院
	表彰	渡邊 義治	(兼務)
理事	総務	恵 智徳	(兼務)
		脇田 慎一	いづろ今村病院
		東 幸浩	(兼務)
		四本 斉	上町いまきいれ病院
		吉田 紫織	相良病院
	学術	愛下 剛	大井病院
		本村 克朗	鹿児島大学病院
		戸川 憲二	メディポリス国際陽子線治療センター
		竹尾 晃一	鹿児島医療センター
		武宮 太	(兼務)
	福利厚生	藤村 卓也	鹿児島医療技術専門学校
	財務	屋部 太輔	米盛病院
地域理事	鹿児島	武宮 太	ひらやま脳神経外科
	南薩	木佐貫 克朗	加世田病院
	北薩	藤崎 拓郎	川内市医師会立市民病院
	霧島・始良	坂口 右己	霧島市立医師会医療センター
	大隅	熊谷 繁夫	昭南病院
	大島	元 俊晶	鹿児島県立大島病院
監事		太田原 美郎	明輝会クリニック
		米山 光明	川内市医師会立市民病院(外部)

磁気共鳴診断装置

MAGNETOM Flow.Elite

Empowering you.

www.siemens-healthineers.com/jp

Next generation 1.5T standard

次世代の1.5T MRIに求められる価値を
集約したプラットフォーム

MAGNETOM Flow.Elite は、Deep Learning 画像再構成による高倍速と超解像の両立に加え、タッチレスセンサーや自由呼吸下撮像により、被検者に依らず質の高い結果を提供し、診断精度を高める Diagnostic Accuracy。被検者とオペレーター双方の検査体験を向上させる Comfortability。ヘリウムフリー構造と省電力設計を実現した Sustainability。診断精度と快適性、そして持続可能性を兼ね備えた、次世代 1.5T の新たなスタンダードです。



SIEMENS
Healthineers

超電導磁石式全身用 MR 装置 MAGNETOM フロー エリート 認証番号：307AABZ00042000

Teleradiology

遠隔画像診断 支援サービス

サービス詳細、
お問い合わせ▼



画像診断業務を
サポートいたします。

i Medical

株式会社iMedical

本社：〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル8階

ホームページ：<https://imedi.co.jp> TEL:03-3556-6481

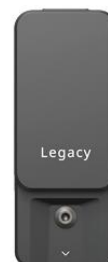
Mako

X線QAの最先端ソリューション



最新モデル

幅広いアプリケーション



唯一無二のX線アナライザ「Mako」は
高い精度とシンプルさを兼ね備え
皆様のX線QAを強力にサポートします。

本社：〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-12
Tel. 03-6380-0731 Fax. 03-6380-0751

大阪：〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原5-1-28
Tel. 06-4867-3919 Fax. 06-4867-3935

アクロバイオ株式会社

<https://www.acrobio.co.jp> info@acrobio.co.jp

Canon

Aquilion Rise

臥位・立位・座位での撮影が可能なマルチポジション CT
3体位撮影が新たな臨床価値へ



〔一般的名称〕全身用 X 線 CT 診断装置 〔販売名〕CT スキャナ Aquilion Rise TSX-402A 〔認証番号〕306ACBZX00036000

B001246

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 <https://jp.medical.canon>

Made For life



DO LESS.

CARE MORE.



MEDRAD® Centargo CT Injection System

操作の時間は最小限に 患者さんへの思いやりは最大限に
造影検査をさまざまな角度から効率化。より多くの時間を患者さんのケアのために。
それは医療を行う上でとても大切なこと、MEDRAD® Centargoが目指すこれからの検査のかたち。

Clear Direction. ➤ From Diagnosis to Care.

PP-M-CEN-JP-0112-19-01

管理医療機器 / 多相電動式造影剤注入装置
販売名 / Centargo CTインジェクションシステム
認証番号 / 302AABZX00091000

製品に関する詳細情報は、各製品の取扱説明書、添付文書をご参照ください。

お問合せ
サービスコール 0120-60-9040
..... 24時間サービスコール対応

製造販売業者
バイエル薬品株式会社
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
E-Mail: BYL-RAD-CS@bayer.com



製品の詳細は、
二次元コードから
弊社Webサイトで
ご覧いただけます。



システムに 求められるもの それは 労力なしでプラスα

私たちメディカルクリエイトが、
放射線業務を力強くトータル支援。
4つの管理

RiSMC
<診断RIS>
診断部門の業務全般を管理
予約管理～在庫管理、各種統計、
増影支援、業務管理 etc

RiSMC-RT
<治療RIS>
治療部門の業務全般を管理
予約管理～カルテ管理、Webレポート、
品質管理、データ抽出機能 etc

連携

RiSMC-DOSE
<被ばく線量管理>
医療法施行規則に対応した
被ばく線量の一元管理 PACS連携、
モダリティ連携、データ検索 etc

3mec
<医療機器管理>
改訂医療法に準拠した、機器管理
日常点検～保守点検、修理情報、
費用管理、資産管理 etc

<放射線業務を力強くサポートするシリーズ>

<https://www.medical-create.com>



MEDICAL CREATE

株式会社メディカルクリエイト
 TEL 082・568・1920 FAX 082・263・1586
 〒732-0827 広島市南区穂荷町1-1 ロイヤルタワー5F 営業所(東京・大阪・中四国・福岡・開発センター)

Nemoto

DUAL SHOT GX10

CT CONTRAST DELIVERY SYSTEM

NEW

販売名: 造影剤自動注入装置 デュアルショット GX10 / 認証番号: 304AHBZX00011Z00

株式会社 **根本杏林堂**

製造販売元: 埼玉県川口市青木2-12-23 / 販売元: 東京都文京区本郷2-27-20

※本製品の仕様及び外観は予告なしに変更する場合がありますのでご了承下さい。



お客様へ、正しさに基づく安心を
ご提供いたします。

TECHNOL

校正技術能力

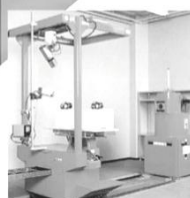
年に1回

品質システム
維持能力

維持管理能力

放射線測定器の校正を済ませましょう

正しい測定、確実な放射線・放射能管理を行うためには、使用する測定器が定期的に校正されている必要があります。弊社大洗研究所は、計量法に基づく、校正事業者登録制度(JCSS)におけるγ線の登録業者です。国家標準とトレーサビリティが取得しており、信頼性の高い校正サービスを提供いたします。



大洗研究所では、1972年から放射線標準を保有。計量法校正事業者登録制度(JCSS)におけるγ線の校正事業者として登録。また、国際MRA対応認定事業者として、国際相互承認(Mutual Recognition Arrangement)加盟国に通用する認定マーク付きの校正証明書が発行可能です。

●弊社校正サービスは、ISO9001の要求事項(監視および計測機器の管理)に有効に活用できます。

※詳しくは下記までお問い合わせください。

放射線測定器校正サービス(一般校正)

放射線測定器校正

お問い合わせは

株式会社 **千代田テクノル**

E-mail: ctc-master@c-technol.co.jp

<https://www.c-technol.co.jp>

FLUKE

LANDAUER

RaySafe

ハイブリッドサーベイメータ

RaySafe 452

半導体式測定器とGM管式測定器を組み合わせた構成により、1台の測定器でさまざまな測定環境に対応が可能です。



For All Your Tomorrows

TOYO MEDIC

E-mail : info@toyo-medico.co.jp <https://www.toyo-medico.co.jp>

東洋メディック株式会社

本社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-8-5 TEL. (03) 6825-1645 FAX. (03) 6825-3737
大阪支店 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀 1-25-7 TEL. (06) 6441-5741 FAX. (06) 6441-5745
福岡支店 〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵 2-2-40 TEL. (092) 482-2022 FAX. (092) 482-2027
支店・営業所 名古屋・札幌・新潟・仙台・岡山



SHIMADZU

Excellence in Science

Evolution, Innovation, Transformation
solving challenges together

Vision on the move

挑戦し続ける、その先の未来へ

The Vision reflects New Possibilities

VISION SUPPORT

3Dカメラから得られる映像に加え、距離及び角度情報をセカンドモニターへ表示。適切なポジショニングをサポートします。



MobileDaRt Evolution
MX9 Version



Scan me,
V



VISION SUPPORTはオプションです

製造販売承認番号 220ABBZX00229000

移動型デジタル式汎用X線診断装置 [回診用X線撮影装置 MobileDaRt Evolution]

移動型アナログ式汎用X線診断装置※、X線平面検出器出力読取式デジタルラジオグラフィ※

特定保守管理医療機器

※本医療機器は複数の一般的な名称に該当します

株式会社 島津製作所 医用機器事業部

<https://www.med.shimadzu.co.jp>

PHILIPS

✦
Feel the freedom with
BlueSeal MRI

Better care
for more people

製造販売業者
株式会社フィリップス・ジャパン
www.philips.co.jp/healthcare

記載されている製品名などの固有名称は、Koninklijke Philips N.V. または
その他の会社の商標または登録商標です。
© 2024 Koninklijke Philips N.V.

竹中のセンサ **TAKEX**

放射線治療を支える品質、精度。
TAKEXは安全性と信頼性の証です。

ビームの開口部を広くした新デザインでイメージアップ、
ALPCVシリーズ、PLM/PLM5シリーズの後継機。
独自の光学設計により視認性を向上させ、リモコンでの
操作性も大幅に改善した、治療計画の新標準です。

放射線治療・画像診断用 レーザサイドポインター



自動位置ズレ補正方式レーザサイドポインター ALPCVシリーズ

- 全方向が電動化しリモコンで操作可能となり、位置記憶もリモコンからのワンタッチ操作で完結し、調整作業性が大幅に向上します。
- 従来からの本体スイッチによる補正動作に加え、ワンショット補正動作がリモコンワンタッチで実行可能となり日常の精度維持が更に容易になります。



多機能リモコン式レーザサイドポインター PLMVシリーズ

- 各軸動作の分解能と精度が向上 (PLM5比較) し、意図したパターン移動で調整作業性が大幅に向上。
- クラス2を維持しつつ、更に明るく視認性が向上し明るいLED照明下でも使いやすくなりました。



竹中センサグループ
竹中オプティック株式会社
TAKENAKA OPTONIC CO.,LTD.
<https://www.takex-opt.co.jp>

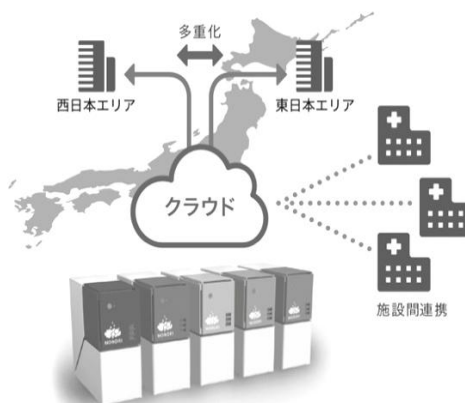
東京営業所 〒103-0021
東京都中央区日本橋本町4-5-1 日東本町ビル5階
TEL 03-3279-1681 (代) FAX 03-3270-2657
E-mail : tokyo@takex-opt.co.jp

京都営業所 〒607-8482
京都市山科区北花山大林町60-1 TAKEX 北花山ビル
TEL 075-592-0107 (代) FAX 075-583-3179
E-mail : kyoto@takex-opt.co.jp



次世代 PACS は セキュアなクラウドサービスへ

「NOBORI」はIT技術によって、
画像などの医療情報を安全に保管・利用できる
新しいクラウドサービスです。



Feature
01

院内サーバ
不要

Feature
02

スピーディーな
画像参照

Feature
03

安心・安全の
データ保管

Feature
04

初期投資
ゼロ

Feature
05

障害自動検知

Feature
06

施設間連携
にも対応



PSP株式会社 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号 博多大博通ビルディング12階 TEL. 03-5657-4315 www.psp.co.jp

United Innovation

Information System から Intelligence System へ

放射線情報システム	iRad®-RS
放射線レポートシステム	iRad®-RW
放射線治療システム	iRad®-RT
放射線治療ビューア	RT Image Viewer™
検像システム	iRad®-QA
整形外科画像システム	iRad®-OT



URL: <http://www.infocom.co.jp/healthcare/> E-mail: iRad-sales@infocom.co.jp
〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7番2号 ミッドタウン・イースト10階 TEL: 03-6866-3790 (受付)



処方箋医薬品⁽¹⁾
放射性医薬品・脳疾患診断薬

ダットスキャン[®] 静注

放射性医薬品基準イオフルパン (¹²³I) 注射液
注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

処方箋医薬品⁽¹⁾
放射性医薬品・局所脳血流診断薬

パーヒューザミン[®] 注

放射性医薬品基準塩酸N-イソプロビル-4-ヨードアンフェタミン (¹²³I) 注射液
注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

処方箋医薬品⁽¹⁾
放射性医薬品・脳疾患診断薬

ビザミル[®] 静注

放射性医薬品基準フルメタモル (¹⁸F) 注射液
注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については電子化された添付文書を参照ください。

®:登録商標

製造販売元
日本メジフィジックス株式会社
〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号
文献請求先及び問い合わせ先 ☎ 0120-07-6941

弊社ホームページの“医療関係者専用情報”サイトで
SPECT・PET検査について紹介しています。
<https://www.nmp.co.jp> 2024年9月作成



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas
多様な視点で未来をデザインする
RETHINK WHAT'S POSSIBLE

バッテリー内蔵“1.9kg”の軽量設計
迅速なワークフローを実現

超 軽 量 高 感 度 高 耐 久

AeroDR swift
1417HL

軽量化・把持性・高画質で、カセット撮影に変革を

バッテリー内蔵1.9kg	100μm画素/DQE59%*1	全周くぼみ設計
MIL規格*2	防水・防塵IP56*3	高耐久抗菌設計*4

AeroDR swiftは『デジタルラジオグラフィ-SKR3000』を構成するP-85(製造販売認証番号:228ABBZX00115000)の呼称です。
★KONICAMINOLTAロゴ、シンボルマークは、日本及びその他の国におけるコニカミノルタ株式会社の登録商標です。★AeroDR swiftは、日本及びその他の国におけるコニカミノルタ株式会社の登録商標または商標です。★その他記載の会社名、製品名はそれぞれの会社の商標または登録商標です。*1:1mmR, 1cycle/mm (DQEの数値はTypical値です。)*2: Method 516.7 Procedure IV Transit Drop (122cm (48インチ)の高さから、各板の上に6平面、12稜線、8頂点、計26箇所を各1回落下させる。)本製品の耐衝撃性能は、無破損・無故障を保証するものではありません。*3: IP規格(防水・防塵規格)は、IEC (国際電気標準化会議)によって定められています。本製品の防水・防塵性能は、完全防水・防塵、無破損・無故障を保証するものではありません。*4: 抗菌効果は全ての面に有効ということではありません。また、抗菌は感染を完全に防げるわけではありません。

製造販売元: コニカミノルタ株式会社 販売元: コニカミノルタ ジャパン株式会社 105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 <http://www.konicaminolta.jp/healthcare>





液体ヘリウムゼロ ヘリウムを使わない時代へ

液体ヘリウムをまったく使わないMRIは
ヘリウム供給の影響を受けず、
クエンチ爆発※のリスクもゼロで
災害時の復旧コストや時間を大幅に削減します

稼働を止めない未来をめざして
ZeroHelium



ECHELON Synergy ZeroHelium

販売名：MRイメージング装置 ECHELON Synergy
認証番号：305ABBZX0004000

ECHELON Smart ZeroHelium

販売名：MRイメージング装置 ECHELON Smart
認証番号：229ABBZX00028000

※超電導状態を失った時の爆発的なヘリウムの放出を表現しています

製造販売業者

富士フイルム株式会社

販売業者

富士フイルム メディカル株式会社

fujifilm.com/fms/

●FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。●この広告に記載されている会社名、商品名は、富士フイルム株式会社またはグループ会社の商標または登録商標です。●ECHELON Synergy ZeroHelium、ECHELON Smart ZeroHeliumは、ZeroHeliumマグネットを搭載したモデルの呼称です。●仕様および外観は予告なく変更されることがあります。●本製品では一部再生資源を使用する場合があります。

Creating a world where
healthcare has no limits



GE HealthCare

GEヘルスケア・ジャパン株式会社

カスタマー・コールセンター 0120-202-021

【受付時間】9:00～18:00 土・日・祝を除く

gehealthcare.com

JB09455JA

Our Synergy for Your Solutions.

つながる力を、あしたの医療のために。

医療現場のニーズに、
ワンストップでお応えする、総合医療パートナー。

私たちエア・ウォーター・リンクは
医療現場のあらゆるご要望や悩みを
スピーディーに解決いたします。

地球の恵みを、社会の望みに。



エア・ウォーター・リンク株式会社

<https://www.awlink.co.jp>

本社 〒612-8418 京都市伏見区竹田向代町132番地1
TEL:075-694-1052 FAX:075-694-1066

●京都支店 ●大阪支店 ●滋賀支店 ●奈良支店 ●津出張所 ●東京営業所
●福岡営業所 ●鹿児島出張所 ●宮崎出張所 ●熊本出張所
●北陸支店(金沢営業所/福井営業所/富山営業所, 滅菌センター)



事業拠点詳細

編集後記

いくぶん残暑も和らぎ、しのぎ良い日が多くなりました。会員の皆様におかれましては、夏のお疲れは出ていらっしゃいませんか。

冒頭にはなりますが、会報 第 146 号をお読みいただき、誠にありがとうございます。今回も皆様のご協力を得て無事発行できたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

話題は変わりますが、この夏、我が家に家族が増えました。

その名もカブゾウ=オスのカブト虫です。娘が学校よりもらいうけました。

カブト虫を育てるなんて 30 年ぶりでしょうか。一週間も経つと情が入り

可愛くてしょうがない・・・と、今年はそんな昆虫と共に過ごした熱い夏でした。



結びにはなりますが、今後も会員の皆さまに読んでいただける紙面作りを目指していきますので引き続き応援よろしくお願いします。

(米重 亮馬)

鹿児島県診療放射線技師会 会報 第 146 号 (令和 8 年 9 月)

発行 : 公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会

発行人: 大迫 俊一

編集者: 米重 亮馬

印刷 : 株式会社 トライ社

鹿児島市南林寺町 12-6 099-226-0815

発創をカタチに

～企画・デザイン・印刷・Web・動画～

「日本webユーザーズ協会」主催の
「2025日本web大賞」において
「協会特別賞(金賞)」を受賞
奄美の船旅ポータルサイト
<https://amami-shiptrip.jp/>

3Dプリンター+3Dスキャナー始めました。

株式
会社 **トライ社**

【本社】鹿児島市南林寺町12-6
TEL.099-226-0815

【Web】<https://www.try-sha.com>



